

「平成27年度 県民の幸福に関する意識調査」
報告書

熊本県企画振興部

目 次

1	調査の概要	1
	(1) 調査目的	1
	(2) 調査対象	1
	(3) 標本抽出法	1
	(4) 調査方法	1
	(5) 設定標本数と回収標本数	2
	(6) 調査時期	2
2	調査項目	3
3	調査結果	4
	(1) 全体集計結果・分析	4
	(2) クロス集計結果・分析	15
	(3) 属性	37

1 調査の概要

(1) 調査目的

県民幸福量を測る総合指標としての「県民総幸福量（AKH）」の算出に必要なデータを収集する。

(2) 調査対象

県内在住の20歳以上の男女

(3) 標本抽出法

「地域によって求める幸福の形は異なる」との認識のもと、地域ごとに精度の高い分析を行うため、平成24年度の抽出法（①）に②・③のステップを加えて、設定標本数3500人分の抽出を行った。

【具体的な抽出法】

①県内全市町村の満20歳以上の男女の人口構成比により標本数3000人を按分して市町村ごとの標本数を決定し、各市町村の住民基本台帳に基づき無作為抽出。

②各市町村を下記の11地域に分類した場合、回収率を50%とおいたときに、1地域で96人（※）の回収に満たない地域が想定されるため、追加500人分を不足する地域に男女比・人口比で按分して割り付け。

※信頼度95%で誤差±10%を想定

③当該地域内の市町村ごとに男女別で無作為抽出。

表：11地域の内訳

熊本	熊本市	※阿蘇	阿蘇市	※芦北	水俣市
※宇城	宇土市 宇城市 美里町		南小国町 小国町 産山村 高森町		芦北町 津奈木町
玉名	荒尾市 玉名市 玉東町 南関町 長洲町 和水町	※上益城	西原村 南阿蘇村 御船町 嘉島町 益城町 甲佐町 山都町	※球磨	人吉市 錦町 あさぎり町 多良木町 湯前町 水上村 相良村 五木村 山江村 球磨村
※鹿本	山鹿市		八代市 氷川町		天草
菊池	菊池市 合志市 大津町 菊陽町	八代			

※印の地域が人口比よりも多めに調査票を割り付けた地域

(4) 調査方法

郵送調査法

(5) 設定標本数と回収標本数

3500人設定 1672人回収 回収率47.8%

(6) 調査時期

平成27年6月1日～平成27年6月15日

但し、7月3日に配達されたものまで有効とした。

◇ 集計上の注意点

標本を人口比より多めに設定した地域が6地域存在するため、県全体や性別、年代別、職業別の分析には、これらの地域の回答が多めに反映されることとなる。

その影響を回避するとともに、平成24・25・26年度との比較が可能となるように、県全体、性別、年代別、職業別の集計にあたり、多めに設定した6地域については、3000人で設定した場合の回収目標数になるように回答データを等間隔抽出して削減した。

従って、クロス集計の地域別のみが3500人で設定した際の回収数で集計している。

注) 等間隔抽出とは、ある集団から標本を抽出する際に、集団に属する個々に通し番号を振り、必要な標本数を満たすように10件おき、20件おきなど、等間隔で抽出する方法。

◇ 端数処理について

「(1) 全体集計結果・分析」及び「(2) クロス集計結果・分析」の「問1」「問8」、「(3) 属性」の集計結果は、小数点第二位を四捨五入しているため、回答割合の合計が100%にならない場合もある。

また、「(2) クロス集計結果・分析」の「問2」の集計結果は、小数点第三位を四捨五入しているため、4つの分類のウエイトの合計が「10」点にならない場合もある。

◇ “4つの分類”のウエイト（重要度）について

4つの分類のウエイト（重要度）の高さの順により、下表のとおり7つに類型化している。

類型Ⅰ	「A 夢を持っている」→「B 誇りがある」→「D 将来に不安がない」→「C 経済的な安定」
類型Ⅱ	「A 夢を持っている」→「C 経済的な安定」→「B 誇りがある」→「D 将来に不安がない」
類型Ⅲ	「A 夢を持っている」→「C 経済的な安定」→「D 将来に不安がない」→「B 誇りがある」
類型Ⅳ	「A 夢を持っている」→「D 将来に不安がない」→「C 経済的な安定」→「B 誇りがある」
類型Ⅴ	「C 経済的な安定」→「A 夢を持っている」→「D 将来に不安がない」→「B 誇りがある」
類型Ⅵ	「C 経済的な安定」→「D 将来に不安がない」→「A 夢を持っている」→「B 誇りがある」
類型Ⅶ	「D 将来に不安がない」→「A 夢を持っている」→「C 経済的な安定」→「B 誇りがある」

2 調査項目

調査項目は以下の4項目である。

[問1] 直観的な幸福度について

現在の「直観的な幸福度」について、「感じている」「やや感じている」「どちらでもない」「どちらかといえば感じていない」「感じていない」の5段階で質問。

[問2] “4つの分類”のウエイト（重要度）について

幸福要因の“4つの分類”（「夢を持っている」「誇りがある」「経済的な安定」「将来に不安がない」）について、幸福の全体を「10」点とした場合に、それぞれのウエイト（どれを重視するかの度合い、重要度）が何点になるのかを質問。

[問3] “12の項目”に関する満足度（実感や考え）について

“12の項目”に関し、それらに対する実感や考え方を5段階（「感じている」～「感じていない」または「持っている」～「持っていない」）で質問。

なお、この間で把握する実感や考え方を回答者の「満足度」と捉えている。

■ “4つの分類”と“12の項目”

4つの分類	12の項目
夢を持っている	家族関係、仕事関係、教育環境
誇りがある	自然資源、歴史・文化、地域社会とのつながり
経済的な安定	家計所得、消費活動、住まい
将来に不安がない	心身の健康、食と生活環境の安全、防災・治安

[問8] 「しあわせ部」の活動の認知度について

「しあわせ部」の活動について、認知度を4段階（「知っており、活動内容もよく分かっている」「知っており、ある程度の活動内容は分かっている」「知っているが、活動内容までは分かっていない」「全く知らない」）で質問。

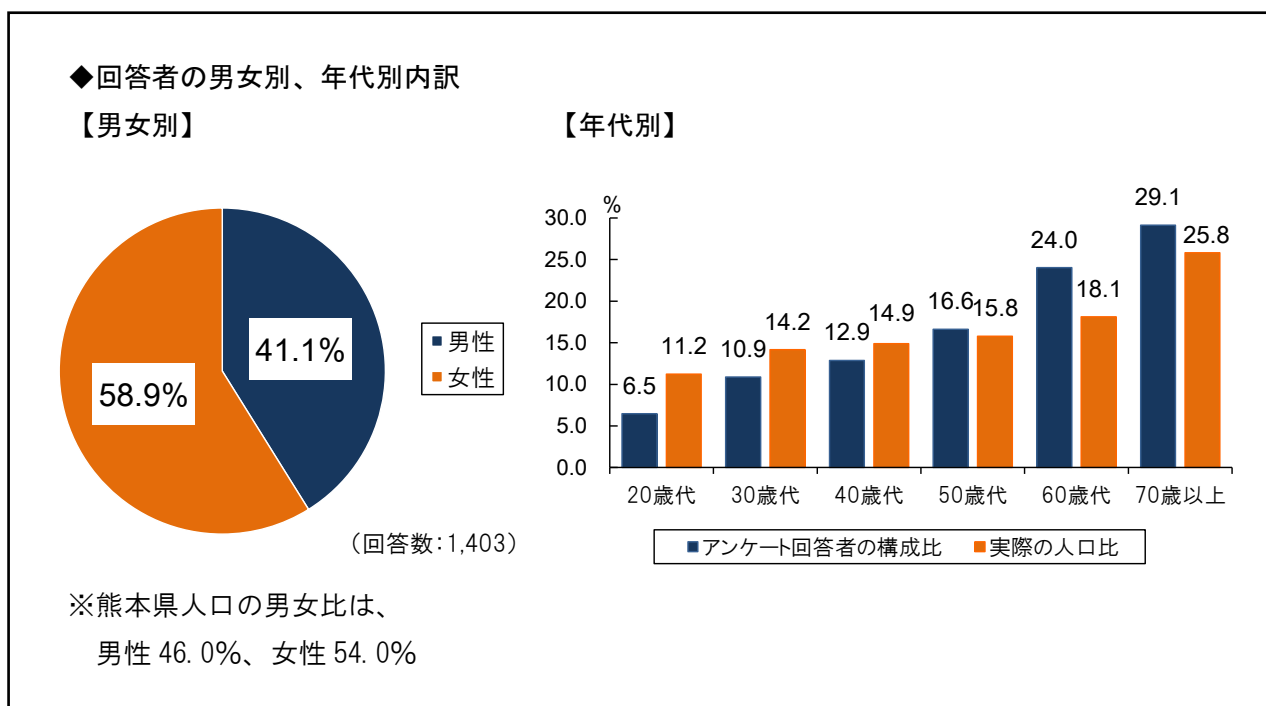
【属性】 [問4] 性別、[問5] 年代、[問6] 居住地、[問7] 職業

3 調査結果

(1) 全体集計結果・分析

男女別及び年代別の内訳は、以下のグラフのとおりである。男女別では、女性の回答が多かった。また、年代別では、実際の熊本県人口構成比（平成26年）と比べて、50歳以上の方からの回答が多かった。

注) 人口比より多めに設定した6地域の影響をなくした1,419人の標本により集計。



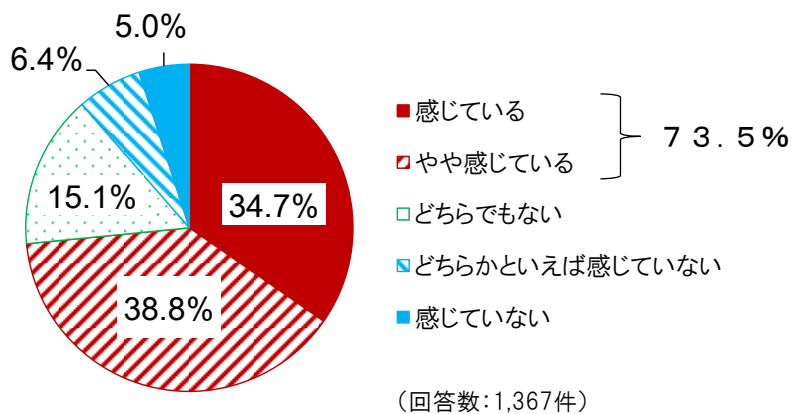
各問及びその回答は次ページ以降のとおりである。

なお、いずれも無回答者の数を除いて集計した結果である。

問1 直観的な幸福度について

問1では、現在、端的に幸せと感じているかという「直観的な幸福度」を5段階評価で質問した。その結果は以下のとおりである。

現在、あなたは幸せだと感じていますか。
最も当てはまるものを1つ選んで、番号に「○」をつけてください。



「感じている」と回答した人は34.7%で3人に1人。

「感じている」と「やや感じている」を合わせた人（以下、“幸福を感じている人”）の割合は73.5%で、ほぼ4人に3人。

前年度の調査結果と比較すると、「感じている」（前年度33.3%）の回答が1.4ポイント増、“幸福を感じている人”（前年度73.2%）が0.3ポイントの微増。

一方、「幸福感」を感じていない人は合わせて11.4%、「どちらでもない」が15.1%。

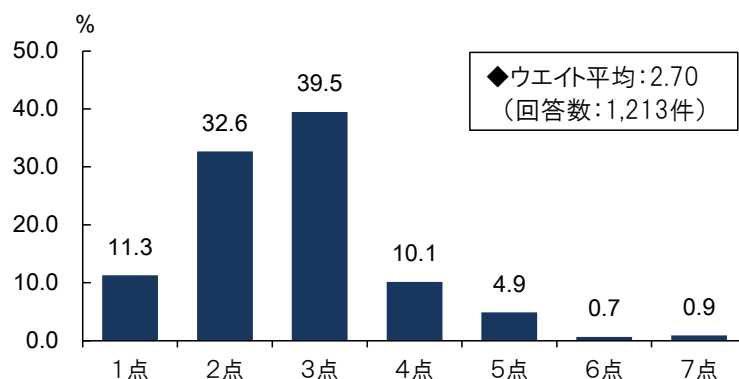
問2 “4つの分類”のウエイト（重要度）について

問2では、幸福要因の“4つの分類”（「A 夢を持っている」「B 誇りがある」「C 経済的な安定」「D 将来に不安がない」）について、幸福の全体を「10」点としたとき、AからDのウエイト（どれを重視するか degree、重要度）がそれぞれ何点になるのかを質問した。なお、集計に際しては“4つの分類”のすべてに1以上のウエイトがつけられ、かつ合計が10点となった回答を対象とし、有効回答数は1,213件であった。

あなたの幸福の全体を「10」点としたとき、A～Dの“4つの分類”の重要度（どれを重視するか degree、ウエイト）は、それぞれ何点になりますか。

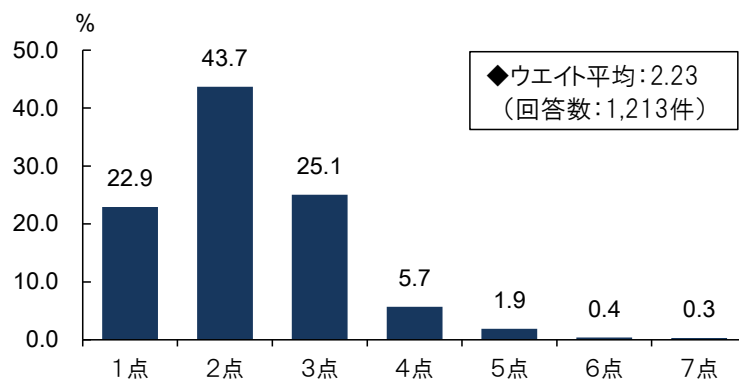
A 夢を持っている

項目：ア 家族関係 イ 仕事関係 ウ 教育環境



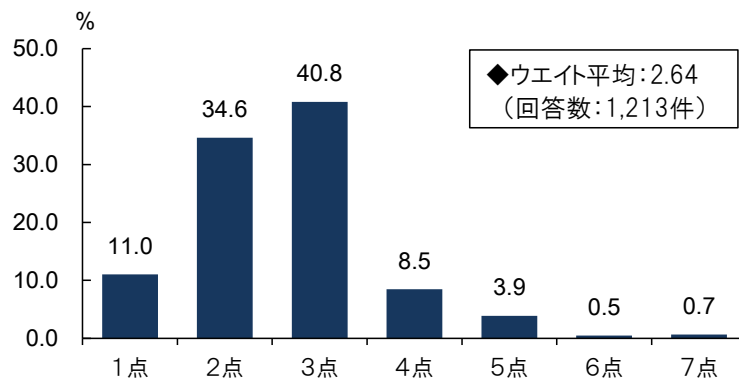
B 誇りがある

項目：ア 自然資源 イ 歴史・文化 ウ 地域社会とのつながり



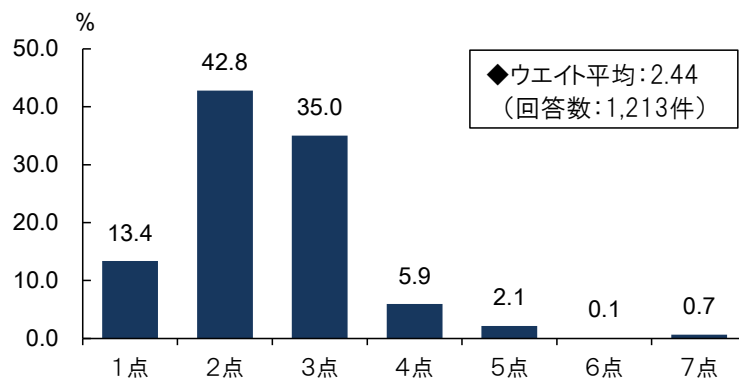
C 経済的な安定

ア 家計所得 イ消費活動 ウ住まい



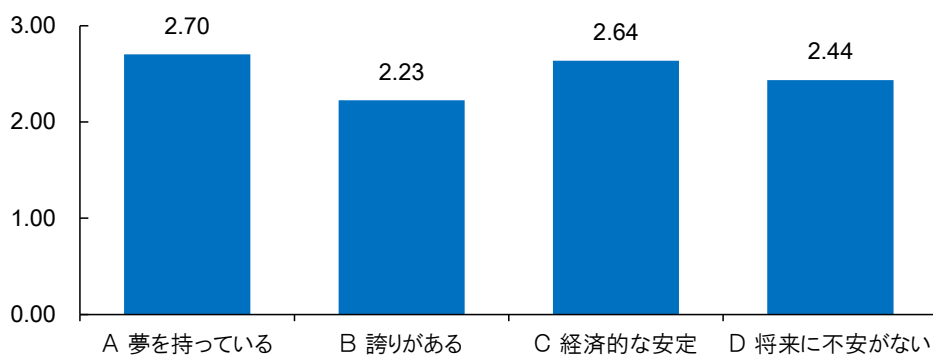
D 将来に不安がない

ア 心身の健康 イ食と生活環境の安全 ウ防災・治安



上記の“4つの分類”のウエイトを整理したのが次のグラフである。

< “4つの分類”のウエイトの平均値 >



問3 “12の項目”に対する満足度（実感や考え）について

問3では、幸福要因の“12の項目”に関して、それぞれに対する実感や考えを5段階で答えてもらうよう質問した。

結果は次ページ以降の図のとおりである。

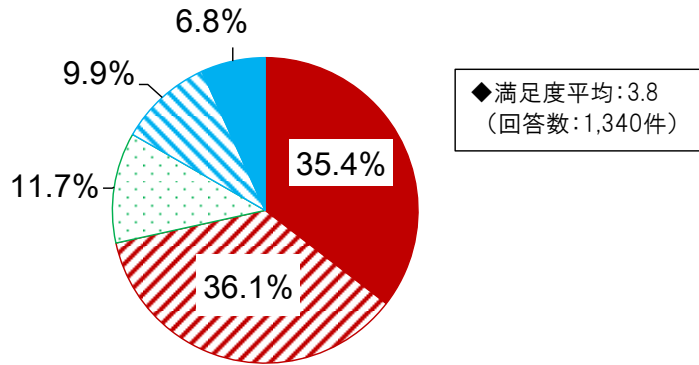
左の円グラフは、それぞれの回答数の割合を示している。また、右の「満足度平均」は、「感じている（または、「持っている）」を5点、「やや感じている（または、「少し持っている）」を4点、「どちらでもない」を3点、「あまり感じていない（または、「あまり持っていない）」を2点、「感じていない（または、「持っていない）」を1点として、それらの平均値（加重平均）を示している。なお、集計に際しては、“12の項目”のすべてに回答があったものを対象とし、有効回答数は1,340件であった。

次のそれぞれの項目について、最も当てはまるものを1つ選んで、番号に「○」をつけてください。

A 夢を持っている

ア 家族関係

あなたは、家族で叶えたいことや、家族に叶えてもらいたいことなど、家族のことで将来の夢を持っていますか？

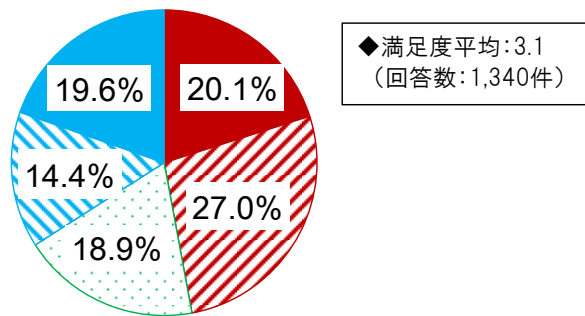


■持っている ■少し持っている ■どちらでもない ■あまり持っていない ■持っていない

イ 仕事関係

あなたは、仕事※のことで将来の夢を持っていますか？

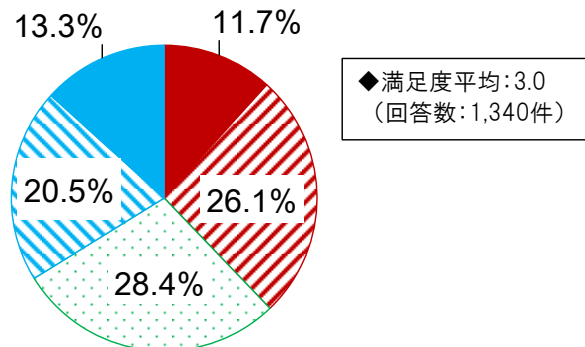
※仕事……パート・アルバイトや社会参加活動、ボランティア活動などを含む



■持っている ■少し持っている ■どちらでもない ■あまり持っていない ■持っていない

ウ 教育環境

あなたは、将来の夢の実現に向けて学べる環境にあると感じていますか？



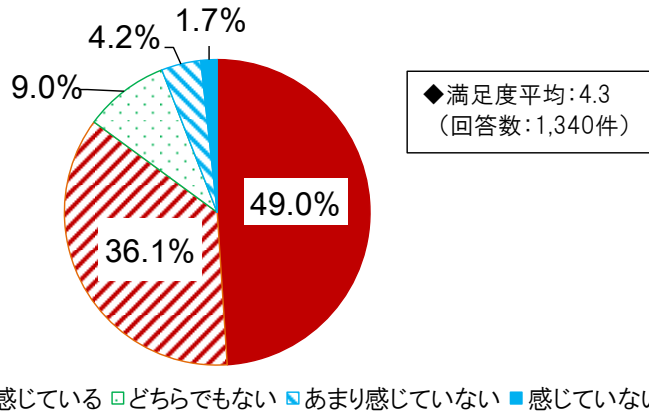
■感じている ■やや感じている ■どちらでもない ■あまり感じていない ■感じていない

B 誇りがある

ア 自然資源

あなたは、地域の自然※を素晴らしいと感じていますか？

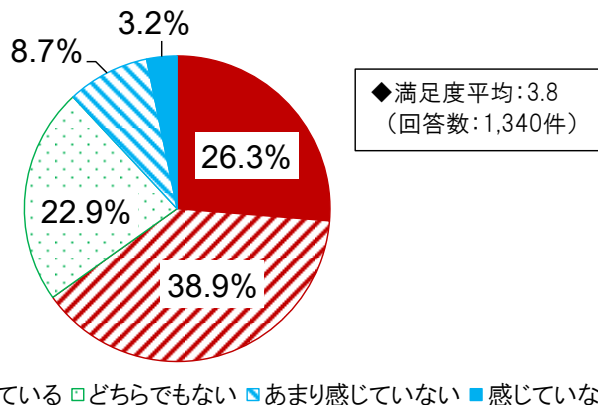
※地域の自然……山、海、河川、森林など



イ 歴史・文化

あなたは、地域の歴史や文化※に誇りを感じていますか？

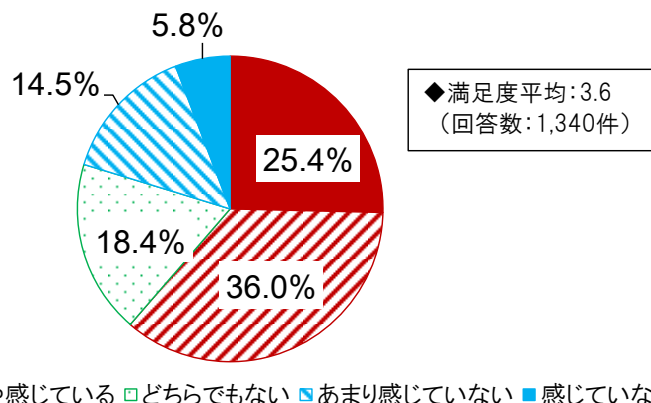
※地域の歴史や文化……歴史的な建造物や史跡、伝統芸能、伝承文化、芸術文化など



ウ 地域社会とのつながり

あなたは、地域社会とのつながり※を感じていますか？

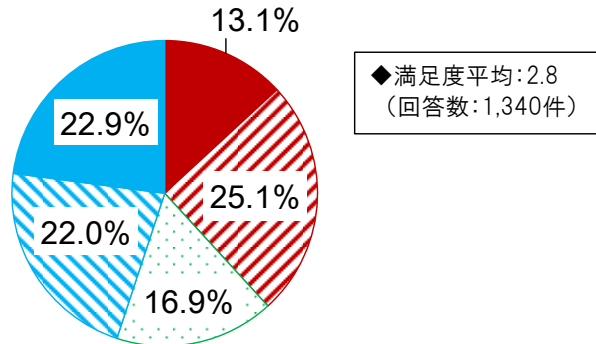
※地域社会とのつながり……近所づきあい、地域の行事・ボランティア活動への参加、友人・知人との交流など



C 経済的な安定

ア 家計所得

あなたは、必要な所得や収入が得られていると感じていますか？

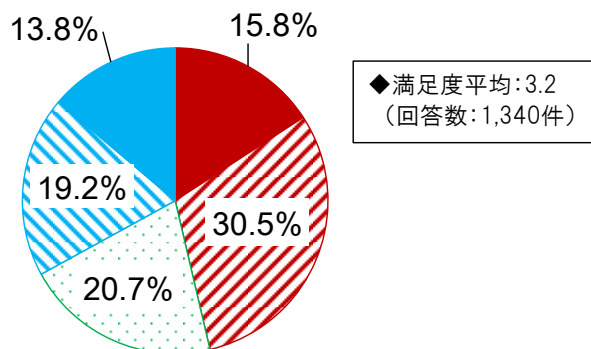


■感じている ■やや感じている ■どちらでもない ■あまり感じていない ■感じていない

イ 消費活動

あなたは、必要なモノやサービス※を購入できていると感じていますか？

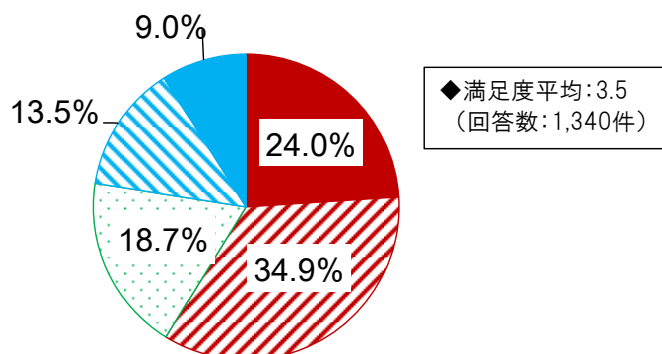
※サービス……レジャーや余暇活動を含む



■感じている ■やや感じている ■どちらでもない ■あまり感じていない ■感じていない

ウ 住まい

あなたは、今の住まいに快適さやゆとりを感じていますか？

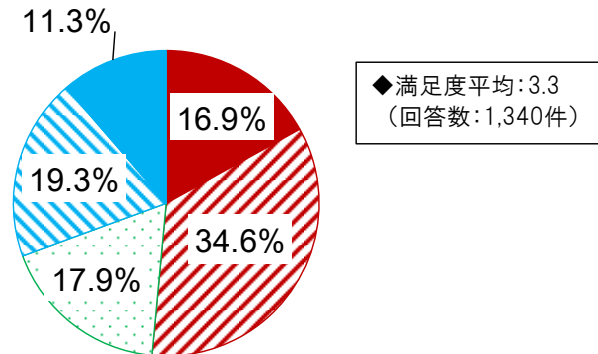


■感じている ■やや感じている ■どちらでもない ■あまり感じていない ■感じていない

D 将来に不安がない

ア 心身の健康

あなたは、こころやからだが健康だと感じていますか？

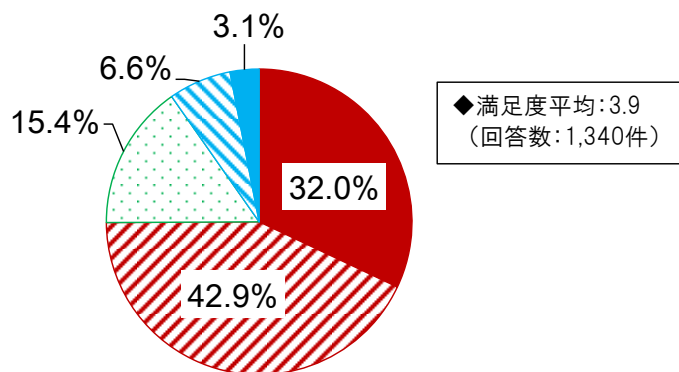


■感じている ■やや感じている □どちらでもない □あまり感じていない ■感じていない

イ 食と生活環境の安全

あなたは、食べ物や地域の生活環境が安全※だと感じていますか？

※地域の生活環境が安全……水や空気がきれい、土壌が汚染されていない、騒音が少ないなど

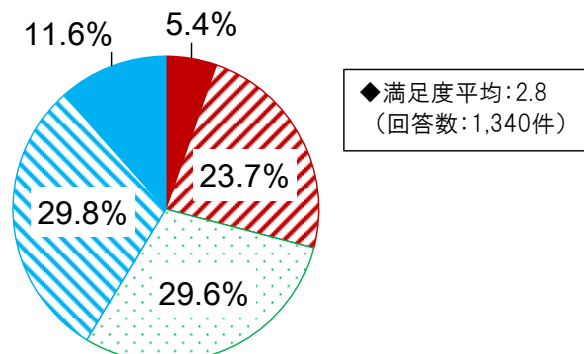


■感じている ■やや感じている □どちらでもない □あまり感じていない ■感じていない

ウ 防災・治安

あなたは、災害や防犯に対する備え※ができていますと感じていますか？

※災害や犯罪に対する備え……防災・防犯グッズの用意等の個人の取組み、見回り活動等の地域の取組み、ソフト・ハード面の行政の対策など



■感じている ■やや感じている □どちらでもない □あまり感じていない ■感じていない

以上の結果を“4つの分類”毎に整理すると次のとおりとなる。

なお、それぞれの分類における各項目の満足度の順位は前年度と変わらなかった。

① 「A 夢を持っている」

「夢を持っている」に対する満足度では、「家族関係」が3.8で高く、「仕事関係」(3.1)と「教育環境」(3.0)はともに中央値程度にとどまる。

「家族関係」においては、「持っている」と回答した人が35.4%を占め、「少し持っている」を合わせた“(家族のことで将来の夢を)持っている人”は7割を超える。

② 「B 誇りがある」

「誇りがある」に対する満足度では、「自然資源」が4.3で特に高く、「歴史・文化」が3.8、「地域社会とのつながり」が3.6で、3項目ともに満足度が高い。

「自然資源」においては、「感じている」の回答が49.0%を占め、「やや感じている」を合わせた“(地域の自然を素晴らしいと)感じている人”が85.1%と大半を占める。また、「歴史・文化」と「地域社会とのつながり」でも“感じている人”の割合がともに6割を超える。

③ 「C 経済的な安定」

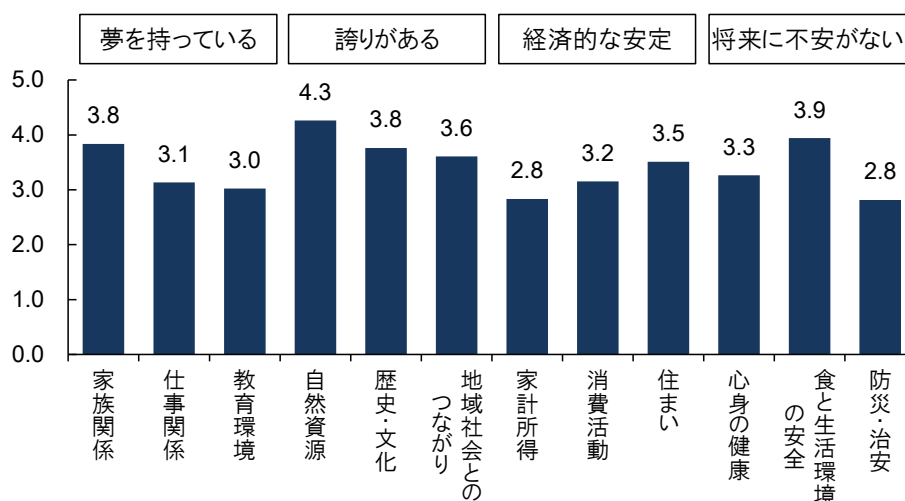
「経済的な安定」に対する満足度では、「家計所得」が2.8で中央値を下回り、「消費活動」が3.2、「住まい」が3.5となった。

「家計所得」においては、「感じている」「やや感じている」を合わせた“(必要な所得や収入が得られていると)感じている人”の割合は38.2%にとどまり、収入に対する満足度は低い。

④ 「D 将来に不安がない」

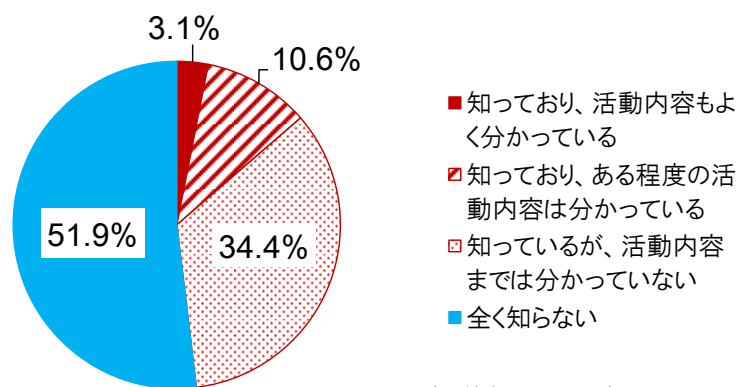
「将来に不安がない」に対する満足度では、「心身の健康」が3.3で中央値をやや上回り、「食と生活環境の安全」が3.9で高く、「防災・治安」が2.8で中央値を下回る。

「心身の健康」では“感じている人”の割合は51.5%でほぼ半数、「食と生活環境の安全」では“感じている人”の割合(74.9%)が4分の3を占めるのに対して、「防災・治安」では29.1%と3割を下回る。



問8 「しあわせ部」の活動の認知度について

問8では、「しあわせ部」の活動について、認知度を4段階で答えてもらうよう質問した。結果は以下のとおりである。



「知っており、活動内容もよく分かっている」が3.1%にとどまり、「知っており、ある程度の活動内容は分かっている」(10.6%)を合わせた“ある程度の活動内容が分かっている人”は13.7%と、ほぼ7人に1人の割合となった。

これに「知っているが、活動内容までは分かっていない」(34.4%)を合わせた“知っている人”の割合は48.1%で半数近くとなり、一方、「全く知らない」の回答は51.9%で半数を超える。

(2) クロス集計結果・分析

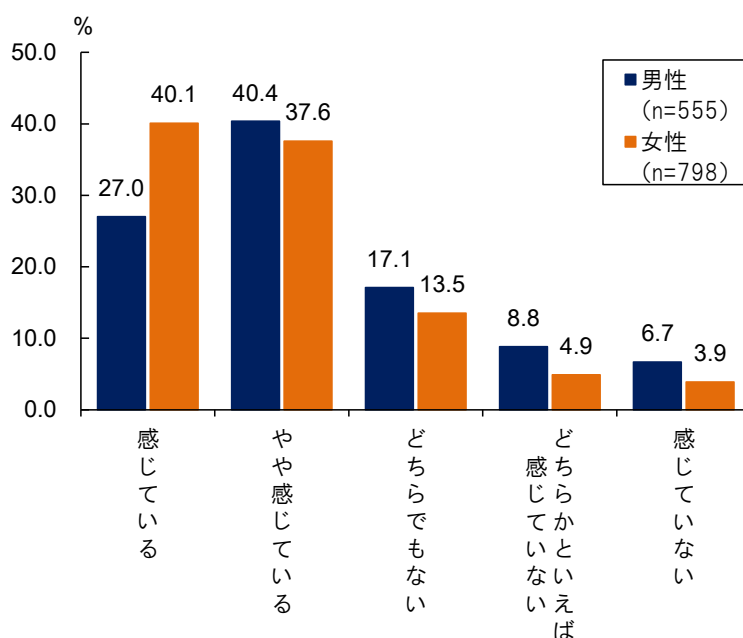
男女別、年代別、居住地別、職業別にクロス集計を行った。

なお、集計に際しては、設問ごとに回答されたすべてを対象とした。このため、回答数がそれぞれ異なっている。

また、職業別に関しては、有効回答数が特に少なく、十分な分析に必要となるデータ数を確保できていない区分があるため、示された数値に一定の誤差が含まれる点に留意する必要がある。

①男女別

問1 直観的な幸福度について



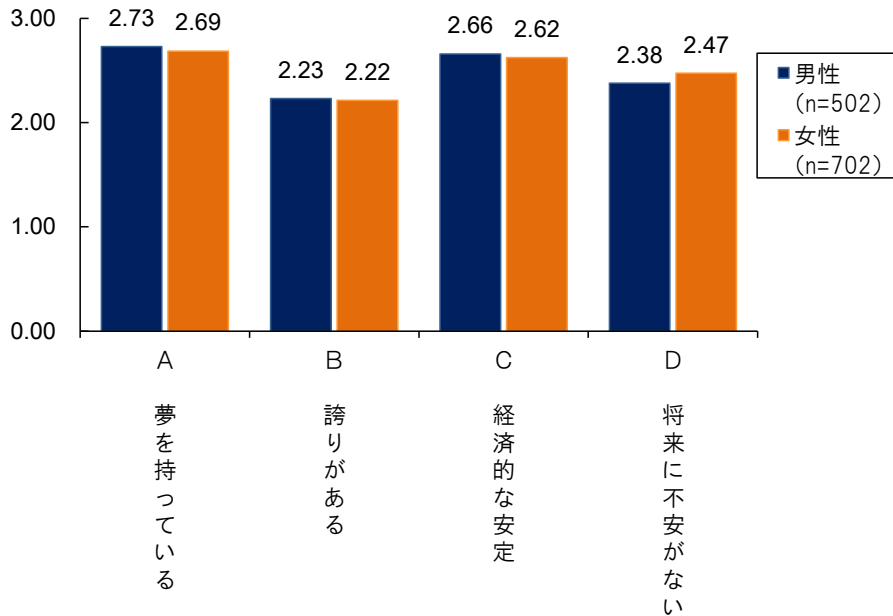
男性では、「やや感じている」と回答した割合が最も高く 40.4%、「感じている」が 27.0% で、これらを合わせた“幸福を感じている人”の割合は合わせて 67.4%。一方、女性では、「感じている」が最も高く 40.1%、「やや感じている」が 37.6% で“幸福を感じている人”の割合は 77.7%。

“幸福を感じている人”（「感じている」＋「やや感じている」）の割合は女性が 10.3 ポイント高く、「感じている」と回答した“幸福度が高い人”の割合も女性が 13.1 ポイント高くなり、いずれも女性が男性を上回る。

幸福度について、女性が男性を上回るのは前年度と同様であるが、その差はさらに拡大している。

問2 “4つの分類”のウエイト（重要度）について

“4つの分類”のウエイトの平均値は、次図のとおりである。



4つの分類のウエイトの平均値は、男女とも「夢を持っている」「経済的な安定」「将来に不安がない」「誇りがある」の順で同じ。

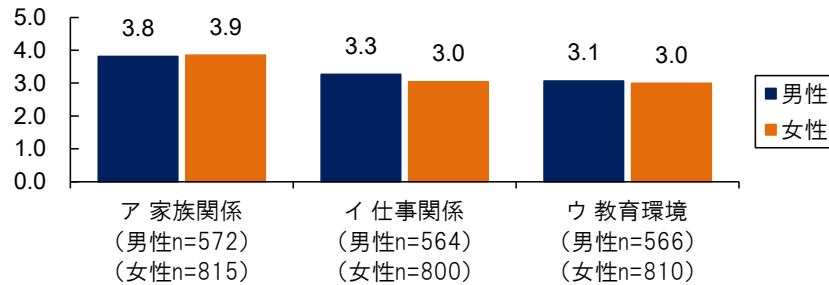
分類別では、「将来に不安がない」で女性が若干上回るが、全体的には大きな差はみられない。

前年度と比較すると、男女とも「夢を持っている」が「経済的な安定」を上回り、1位と2位が入れ替わっている。

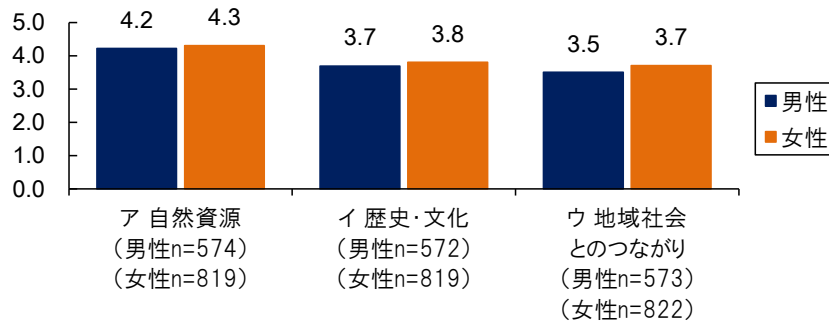
問3 “12の項目”に対する満足度（実感や考え）について

幸福要因の“12の項目”について、それぞれの満足度の平均値は次図のとおりである。

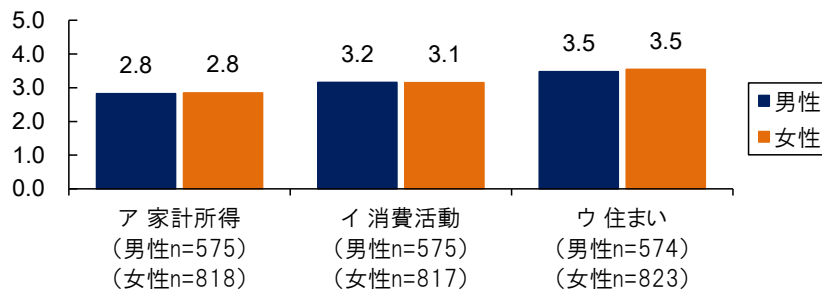
A 夢を持っている



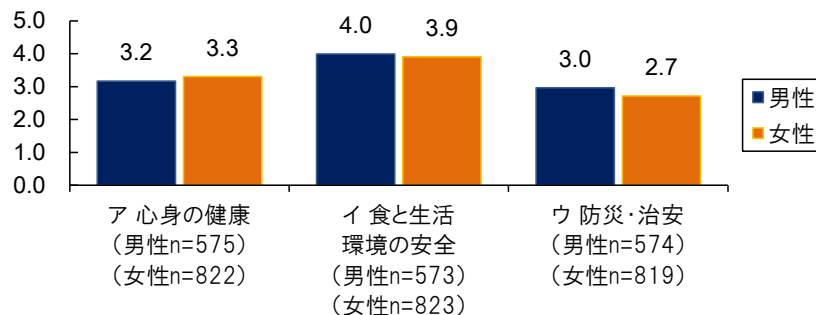
B 誇りがある



C 経済的な安定



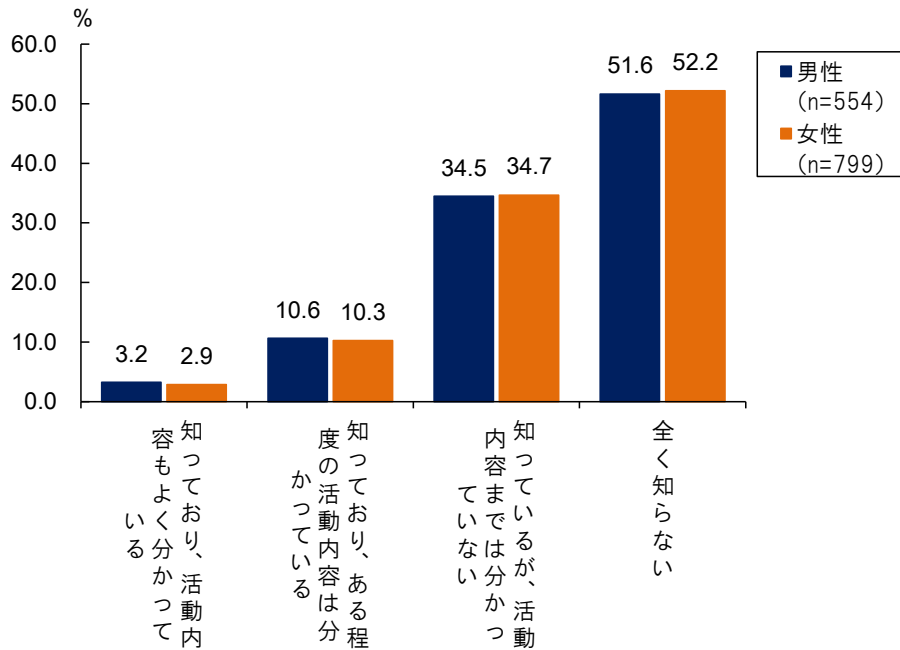
D 将来に不安がない



ほとんどの項目で男女同点か0.1ポイントの差。0.2ポイント以上の差があったのは、「夢を持っている」の「仕事関係」と「将来に不安がない」の「防災・治安」で男性が0.3ポイント上回り、「誇りがある」の「地域社会とのつながり」では女性が0.2ポイント上回る。

問 8 「しあわせ部」の活動の認知度について

「しあわせ部」の活動の認知度は、次図のとおりである。

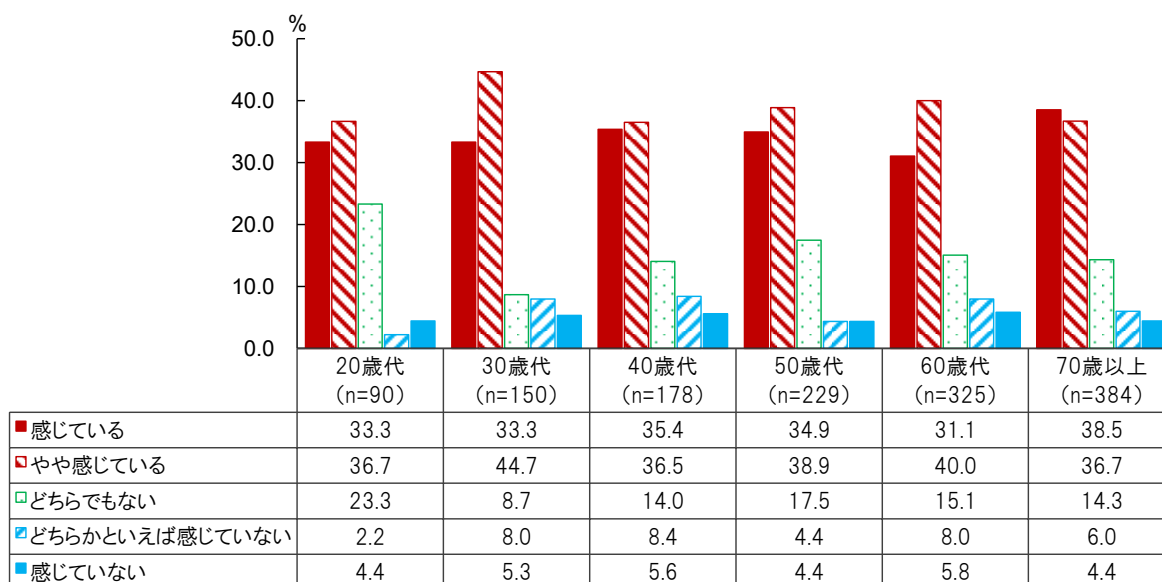


「知っているが、活動内容までは分かっていない」と「知っているが、活動内容までは分かっていない」を合わせた「知っているが、活動内容までは分かっていない」の割合は男性が 13.8%、女性が 13.2%で、男女間で大きな差はみられない。

また、「知っているが、活動内容までは分かっていない」を含めた、「しあわせ部」の存在について「知っている人」は男性が 48.3%、女性が 47.9%で男女とも半数近くとなり、これも男女間で差はみられない。

②年代別

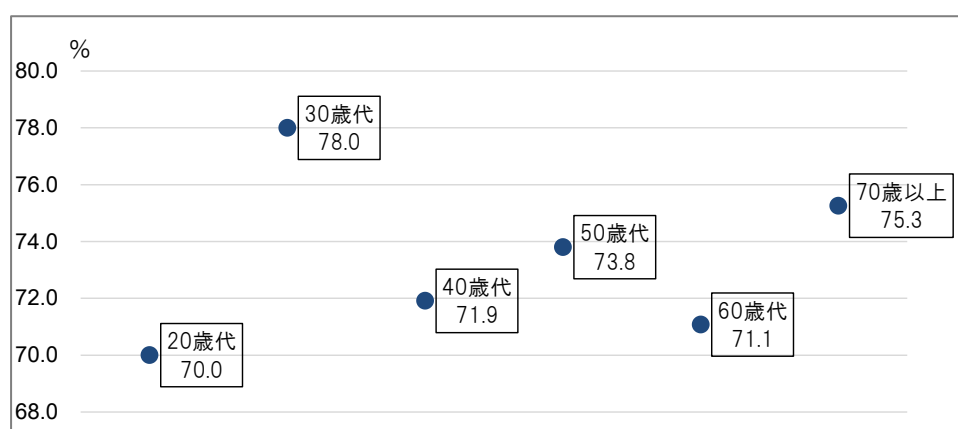
問1 直観的な幸福度について



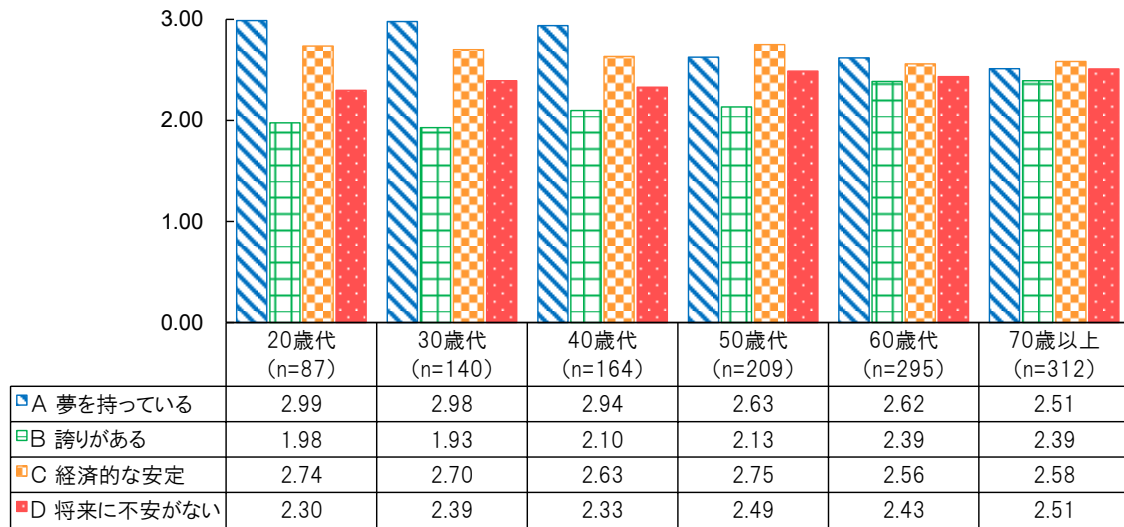
年代別にみた直観的な幸福度については、「感じている」と「やや感じている」を合わせた“幸福を感じている人”の割合は、30歳代が最も高く78.0%、次いで70歳以上が75.3%、50歳代が73.8%の順となり、その他の年代でも7割に達している。

また、「感じている」と回答した“幸福度が高い人”の割合は70歳以上が最も高く38.5%であった。

【年代別にみた“幸福を感じている人”の割合】



問2 “4つの分類”のウエイト（重要度）について



20～40歳代の中若年層では、「夢を持っている」が3.00近くで高く、これに「経済的な安定」、「将来に不安がない」が続き、「誇りがある」はいずれも2.00前後。

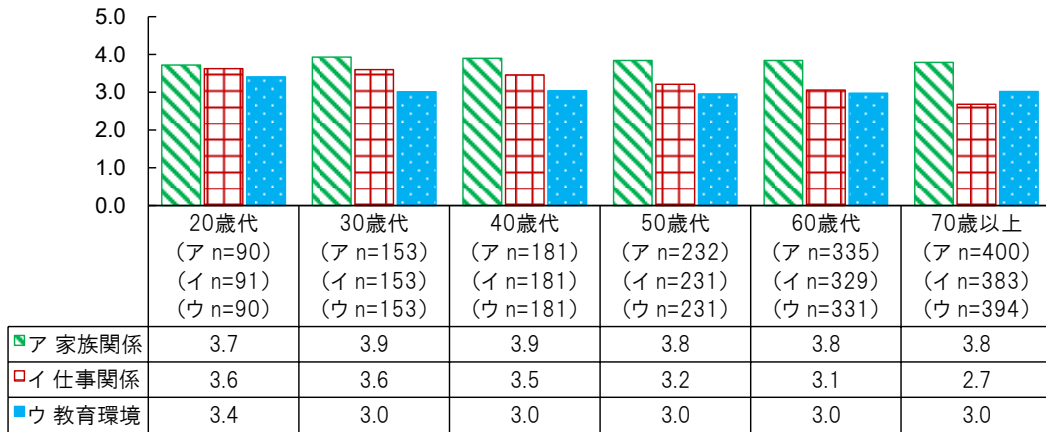
一方、50歳以上の中高年層になると4つの分類の差が小さくなる。50歳代と70歳以上では「経済的な安定」が最も高く、「夢を持っている」「将来に不安がない」「誇りがある」の順となり、60歳代では「夢を持っている」「経済的な安定」「将来に不安がない」「誇りがある」の順となった。

類 型	年 代
[類型Ⅲ] 「A 夢を持っている」 → 「C 経済的な安定」 → 「D 将来に不安がない」 → 「B 誇りがある」	20歳代 30歳代 40歳代 60歳代
[類型Ⅴ] 「C 経済的な安定」 → 「A 夢を持っている」 → 「D 将来に不安がない」 → 「B 誇りがある」	50歳代 70歳以上

問3 “12の項目”に対する満足度（実感や考え）について

“4つの分類”ごとに、各項目の満足度の平均値を年代別に比較した。

A 夢を持っている

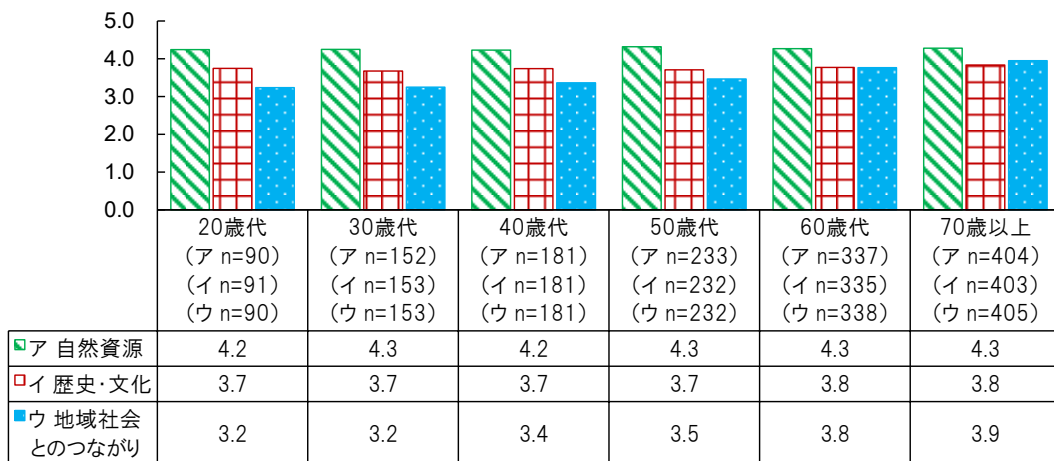


「家族関係」では、30歳代と40歳代の3.9をはじめ、すべての年代で高い。

「仕事関係」では、20歳代と30歳代が3.6、40歳代が3.5と若い年代で高く、70歳以上は2.7で中央値を下回り低い。

「教育環境」では、20歳代が3.4となり、30歳以上ではすべての年代が中央値3.0で並ぶ。

B 誇りがある

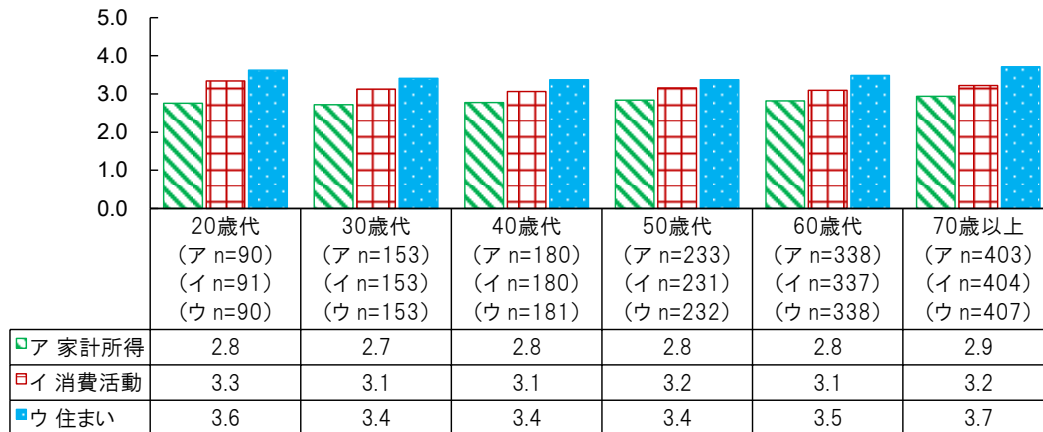


「自然資源」では、すべての年代で4.0を超え高い。

「歴史・文化」では、すべての年代が3.7と3.8でほぼ並んでいる。

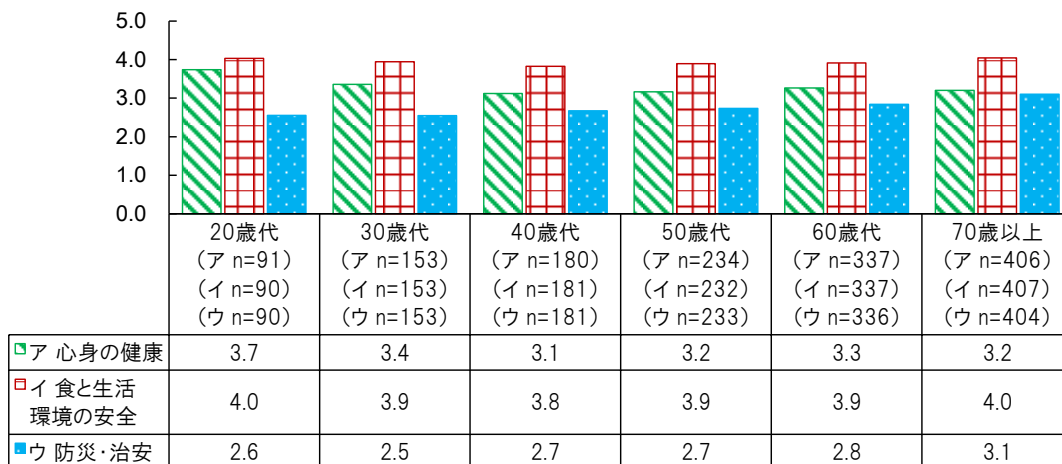
「地域社会とのつながり」では、70歳以上が3.9、60歳代が3.8で高く、20歳代と30歳代は3.2で中央値近く。

C 経済的な安定



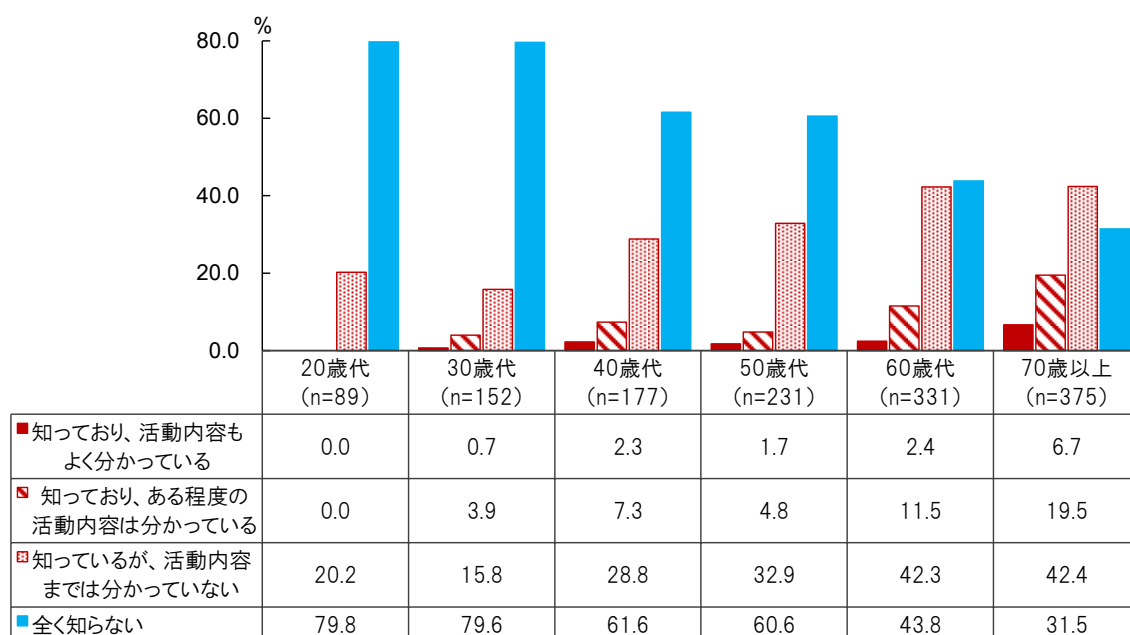
「家計所得」では、30歳代が2.7で最も低く、すべての年代で中央値を下回る。
 「消費活動」では、20歳代が3.3でやや高いものの、すべての年代で中央値近く。
 「住まい」では、70歳代が3.7が高く、その他の年代は3.4から3.6でほぼ並ぶ。

D 将来に不安がない



「心身の健康」では、20歳代が3.7が高く、40歳代が3.1で最も低い。
 「食と生活環境の安全」では、20歳代と70歳以上が4.0で高いが、すべての年代が3.8以上で大きな差はみられない。
 「防災・治安」では、70歳以上が3.1の他は中央値を下回る。30歳代では2.5、20歳代では2.6にとどまる。

問8 「しあわせ部」の活動の認知度について

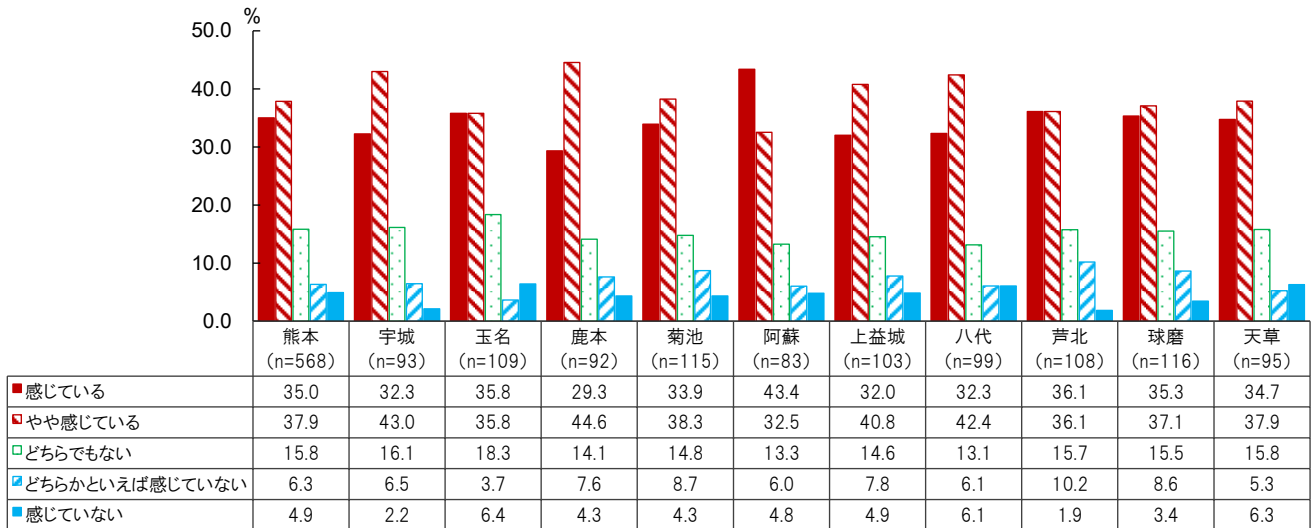


「しあわせ部」の活動の認知度については、“ある程度の活動内容が分かっている人”（「知っており、活動内容もよくわかっている」＋「知っており、ある程度の活動内容は分かっている」）の割合は20～50歳代では10%未満、60歳代では10%台、70歳以上では20%台にとどまっている。特に20歳代ではゼロとなった。

また、「しあわせ部」の存在について“知っている人”の割合は、70歳以上が7割近く、60歳代が50%台と高年層で高く、40歳代と50歳代の中年層では4割近く、20歳代と30歳代の若年層ではほぼ2割となった。

③地域別

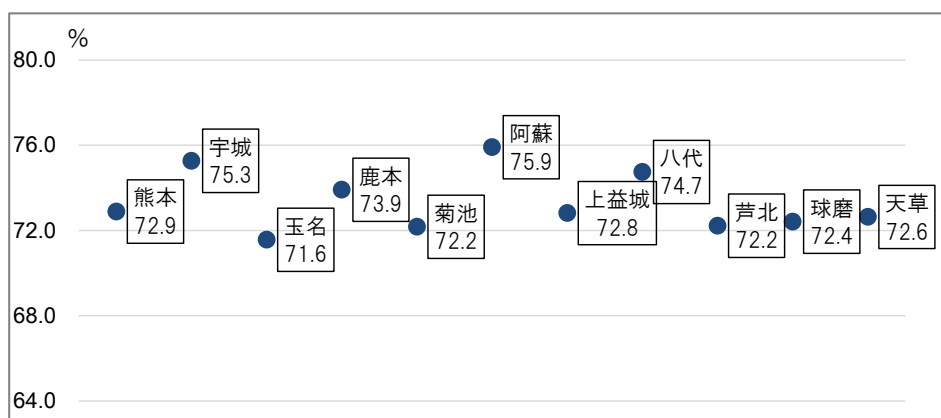
問1 直観的な幸福度について



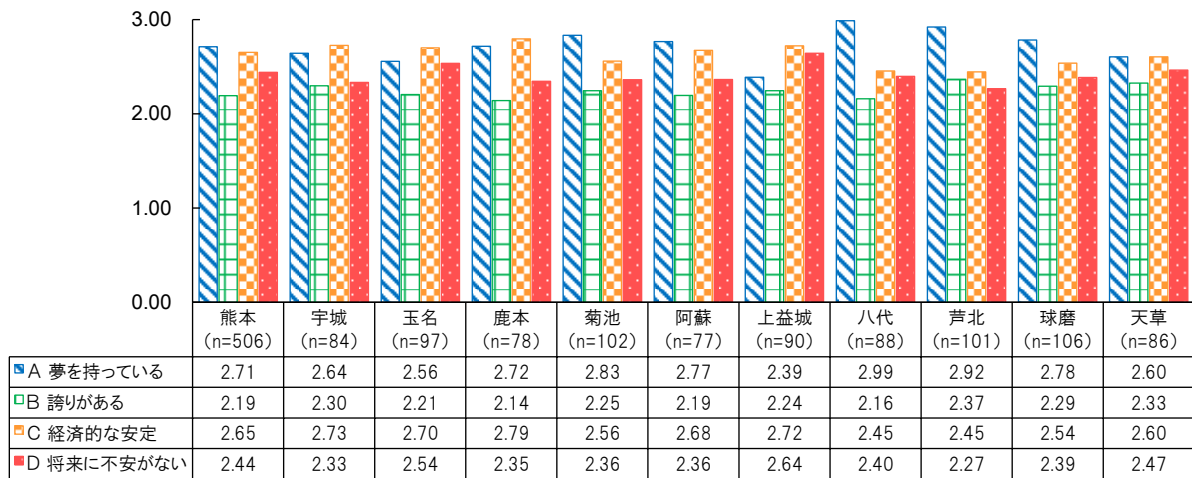
直観的な幸福度については、「感じている」と「やや感じている」を合わせた“幸福を感じている人”の割合は、阿蘇が最も高く 75.9%、次いで宇城が 75.3%、八代が 74.7%の順となり、その他の地域でも7割を超えた。

また、「感じている」と回答した“幸福度が高い人”の割合は、阿蘇が43.4%で特に高く、これに対して鹿本が29.3%で最も低い。

【地域別にみた“幸福を感じている人”の割合】



問2 “4つの分類”のウエイト（重要度）について



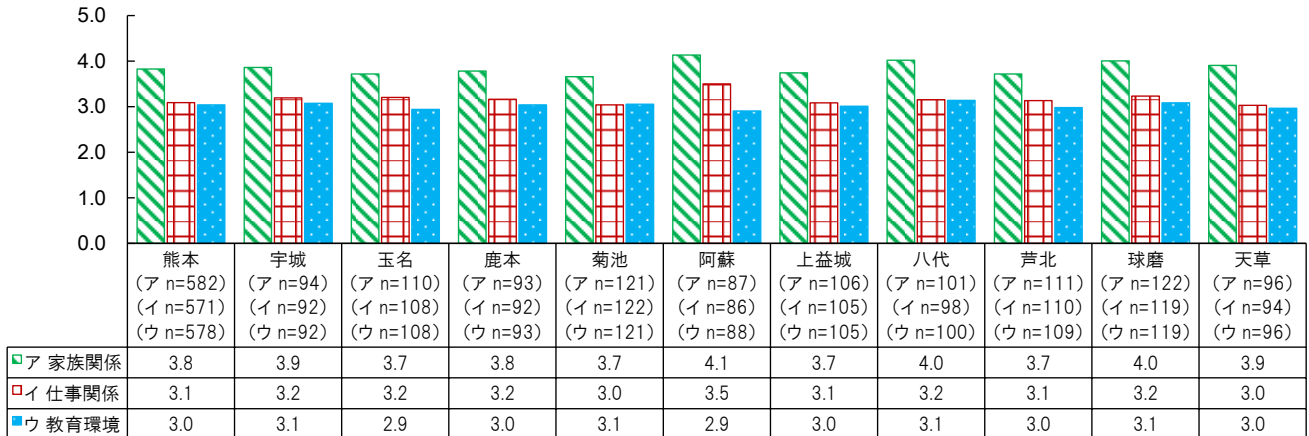
ウエイトの高さの順に11地域を整理すると、下表のようになった。

類 型	年 代
[類型Ⅱ] 「A 夢を持っている」 → 「C 経済的な安定」 → 「B 誇りがある」 → 「D 将来に不安がない」	芦北
[類型Ⅲ] 「A 夢を持っている」 → 「C 経済的な安定」 → 「D 将来に不安がない」 → 「B 誇りがある」	熊本 菊池 阿蘇 八代 球磨 天草
[類型Ⅴ] 「C 経済的な安定」 → 「A 夢を持っている」 → 「D 将来に不安がない」 → 「B 誇りがある」	宇城 玉名 鹿本
[類型Ⅵ] 「C 経済的な安定」 → 「D 将来に不安がない」 → 「A 夢を持っている」 → 「B 誇りがある」	上益城

問3 “12の項目”に対する満足度（実感や考え）について

“4つの分類”ごとに、各項目の満足度の平均値を地域別に比較した。

A 夢を持っている

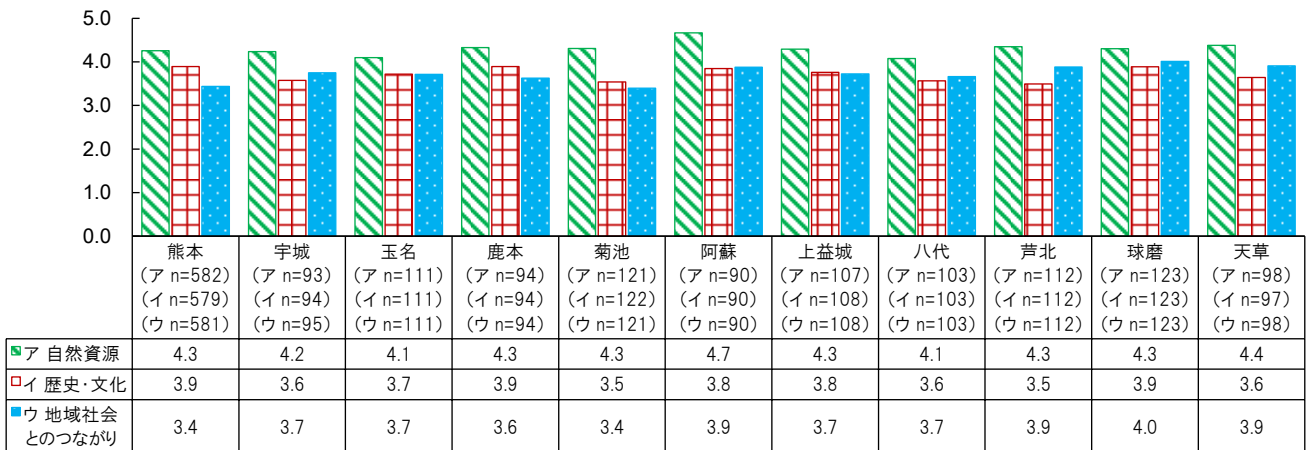


「家族関係」では、阿蘇が4.1、八代と球磨が4.0で他の地域と比べやや高い。

「仕事関係」では、阿蘇が3.5で高く、他の地域は中央値（3.0）付近に集中している。

「教育環境」では、すべての地域で2.9~3.1と中央値付近に集中している。

B 誇りがある



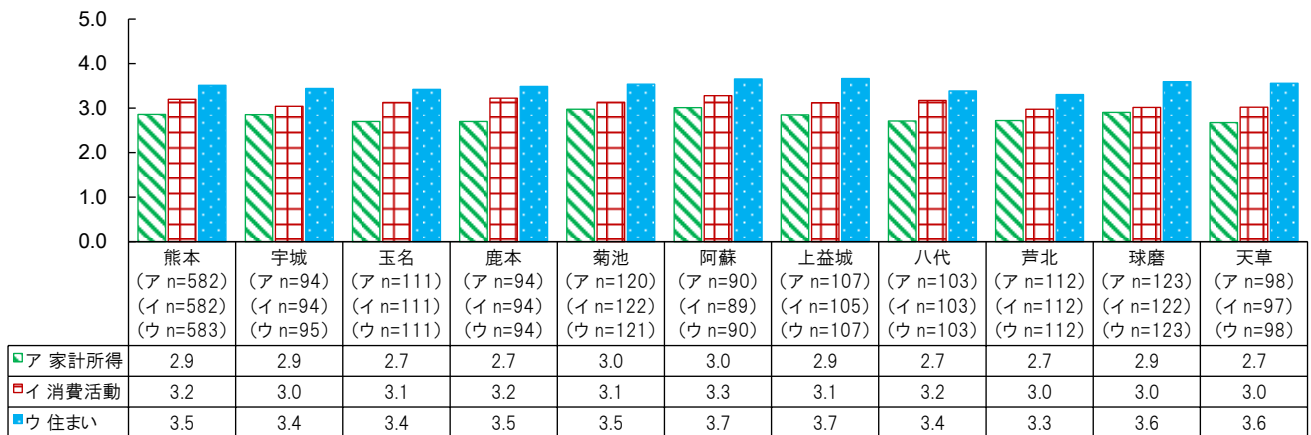
「自然資源」では、すべての地域で4.0を超え高く、阿蘇は4.7でほぼ満点に近い評価。

「歴史・文化」では、熊本、鹿本、球磨が3.9で最も高く、菊池と芦北が3.5で最も低い。

「地域社会とのつながり」では、球磨が4.0で最も高く、阿蘇、芦北、天草が3.9で続く。

最も低いのは熊本と菊池の3.4。

C 経済的な安定

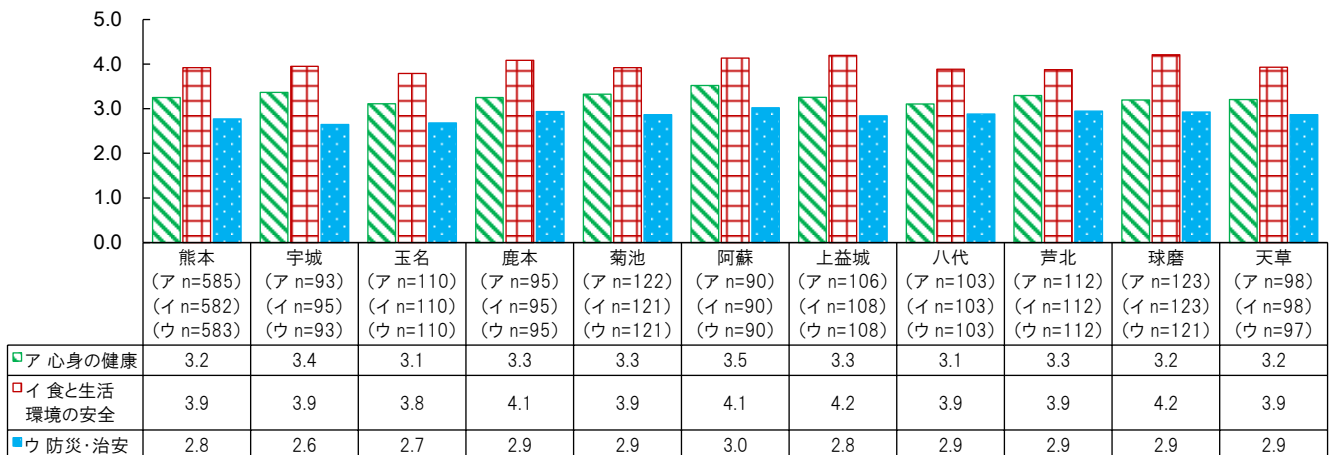


「家計所得」では、菊池と阿蘇が中央値の3.0で、その他の地域は3.0を下回る。

「消費活動」では、すべての地域で3.0~3.3の中央値近くにとどまる。

「住まい」では、阿蘇と上益城が3.7で最も高く、芦北が3.3で最も低い。

D 将来に不安がない

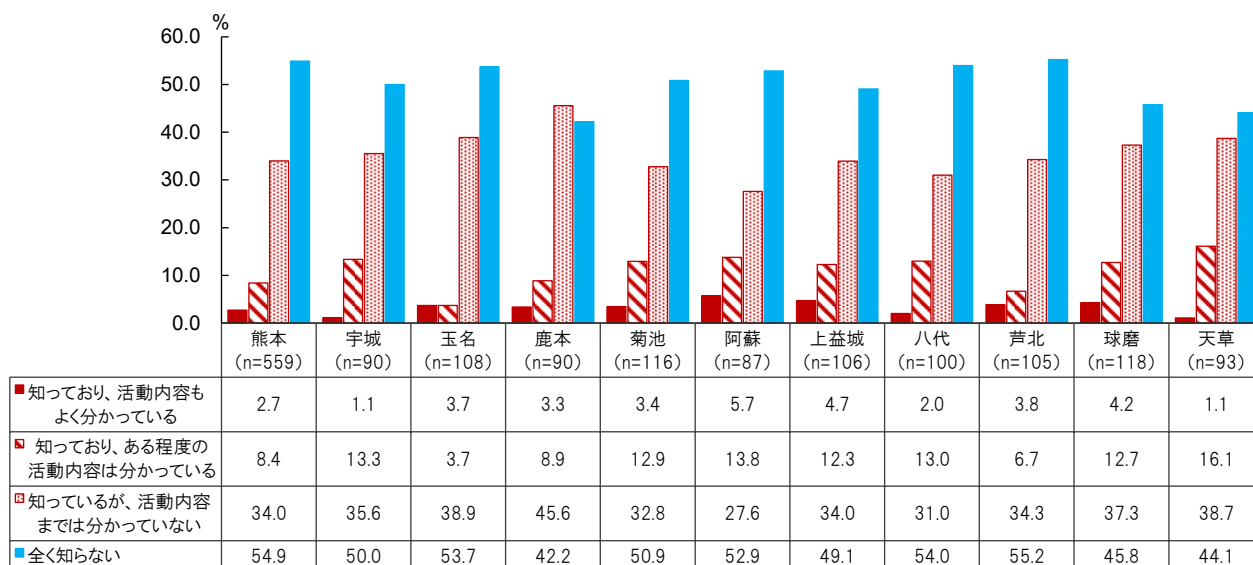


「心身の健康」では、阿蘇が3.5で最も高く、玉名と八代が3.1で最も低い。

「食と生活環境の安全」では、すべての地域で高く、上益城、球磨、鹿本、阿蘇では4.0を超える。

「防災・治安」では、阿蘇が3.0の中央値で、その他の地域は3.0を下回る。

問8 「しあわせ部」の活動の認知度について

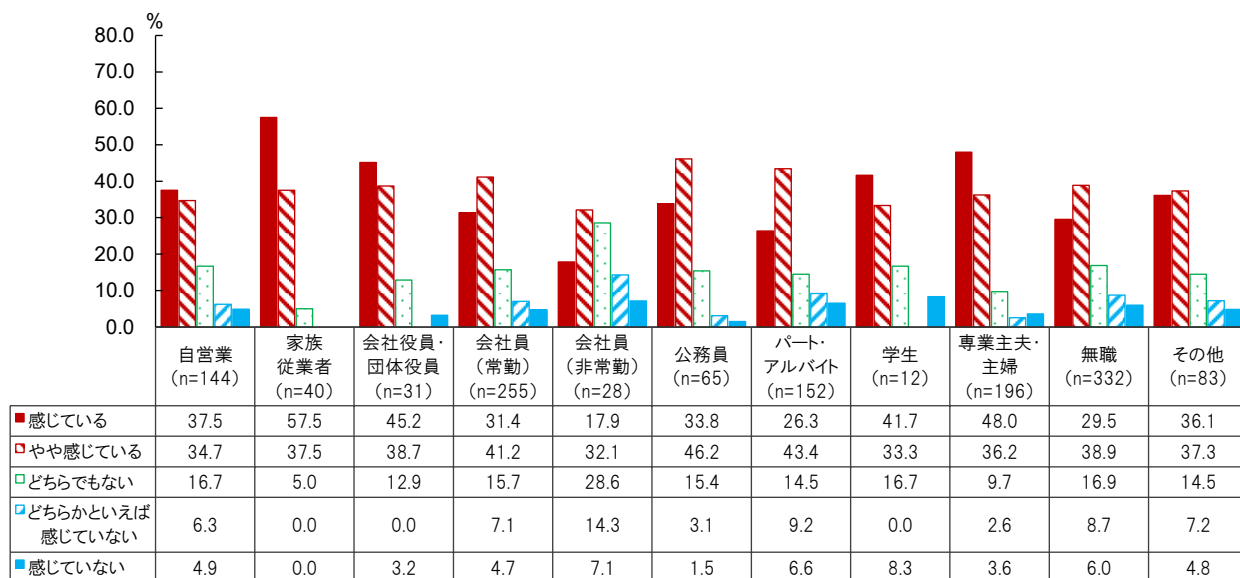


「しあわせ部」の活動の認知度については、“ある程度の活動内容が分かっている人”の割合は、阿蘇が最も高く19.5%、これに天草（17.2%）、上益城（17.0%）、球磨（16.9%）が続く。最も低いのは玉名の7.4%で、唯一10%を下回る。

また、“知っている人”の割合は、鹿本、天草、球磨、上益城で5割を上回る。最も低いのは芦北で44.8%、これに熊本が45.1%が続く。

④職業別

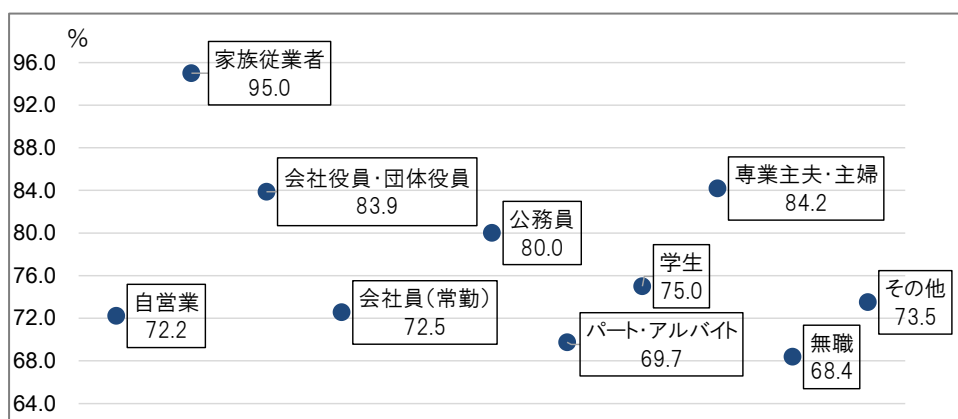
問1 直観的な幸福度について



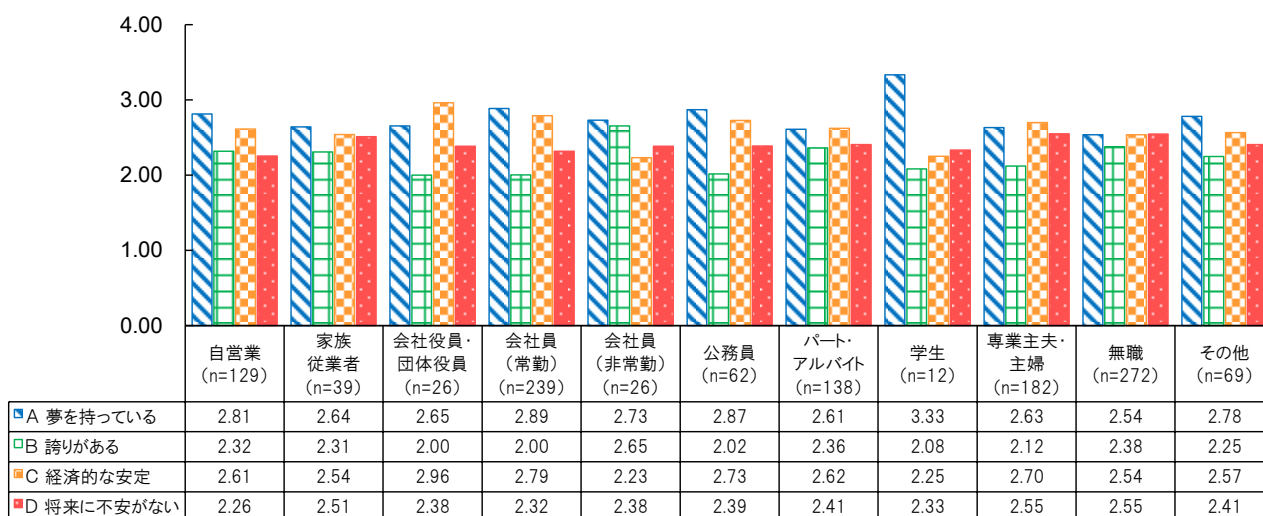
直観的な幸福度については、「感じている」と「やや感じている」を合わせた“幸福を感じている人”の割合は、家族従業者が95.0%で特に高く、次いで専業主夫・主婦(84.2%)、会社役員・団体役員(83.9%)、公務員(80.0%)が8割に達する。これに対して、低いのは無職(68.4%)、パート・アルバイト(69.7%)で60%台にとどまる。

また、「感じている」と回答した“幸福度が高い人”の割合は、「家族従業者」が57.5%で半数を超え、「専業主夫・主婦」が48.0%、「会社役員・団体役員」が45.2%で続く。

【職業別に見た“幸福を感じている人”の割合】



問2 “4つの分類”のウエイト（重要度）について



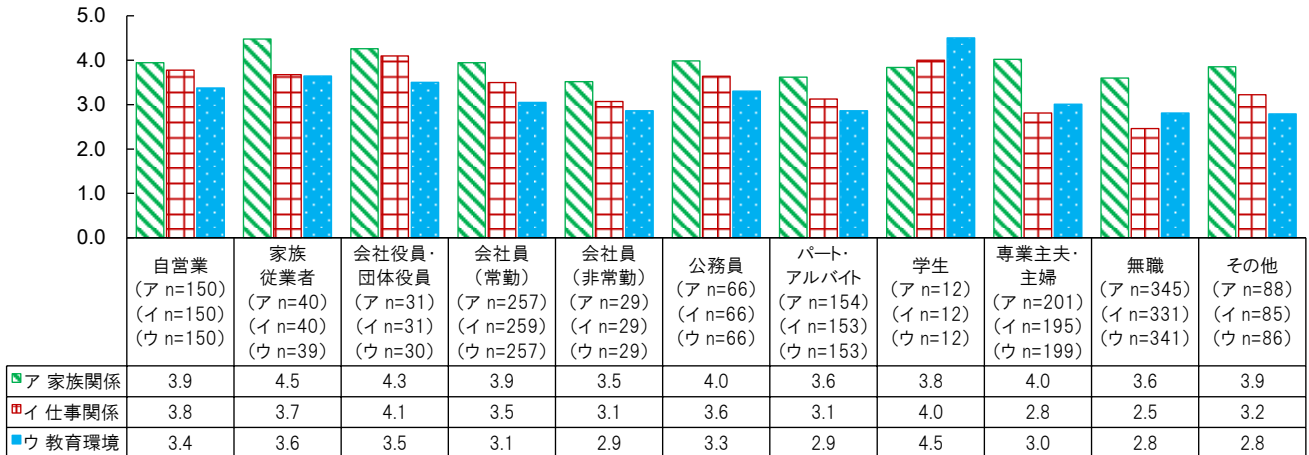
ウエイトの高さの順に職業別に整理すると、下表のようになった。

類 型	年 代
[類型Ⅰ] 「A 夢を持っている」 → 「B 誇りがある」 → 「D 将来に不安がない」 → 「C 経済的な安定」	会社員（非常勤）
[類型Ⅱ] 「A 夢を持っている」 → 「C 経済的な安定」 → 「B 誇りがある」 → 「D 将来に不安がない」	自営業
[類型Ⅲ] 「A 夢を持っている」 → 「C 経済的な安定」 → 「D 将来に不安がない」 → 「B 誇りがある」	家族従業者 会社員（常勤） 公務員 その他
[類型Ⅳ] 「A 夢を持っている」 → 「D 将来に不安がない」 → 「C 経済的な安定」 → 「B 誇りがある」	学生
[類型Ⅴ] 「C 経済的な安定」 → 「A 夢を持っている」 → 「D 将来に不安がない」 → 「B 誇りがある」	会社役員・団体役員 パート・アルバイト 専業主夫・主婦
[類型Ⅶ] 「D 将来に不安がない」 → 「A 夢を持っている」 = 「C 経済的な安定」 → 「B 誇りがある」	無職

問3 “12の項目”に対する満足度（実感や考え）について

“4つの分類”ごとに、各項目の満足度の平均値を職業別に比較した。

A 夢を持っている

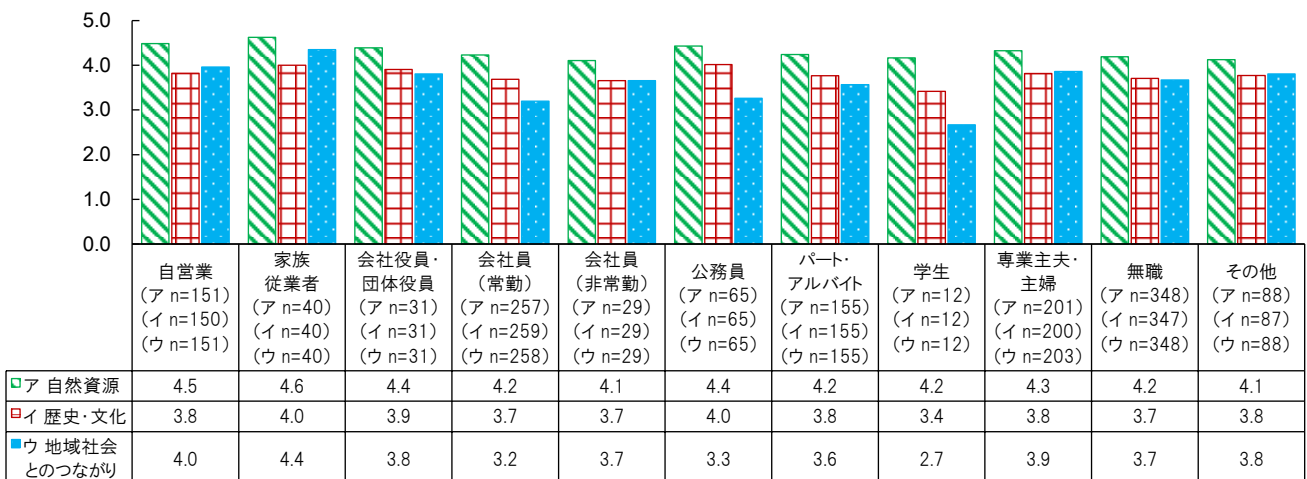


「家族関係」では、家族従業者が4.5で最も高く、会社役員・団体役員が4.3で続く。

「仕事関係」では、会社役員・団体役員が4.1、学生が4.0で高く、専業主夫・主婦、無職が3.0を下回り低い。

「教育環境」では、学生が4.5で特に高く、無職、その他、会社員（非常勤）、パート・アルバイトが3.0を下回り低い。

B 誇りがある

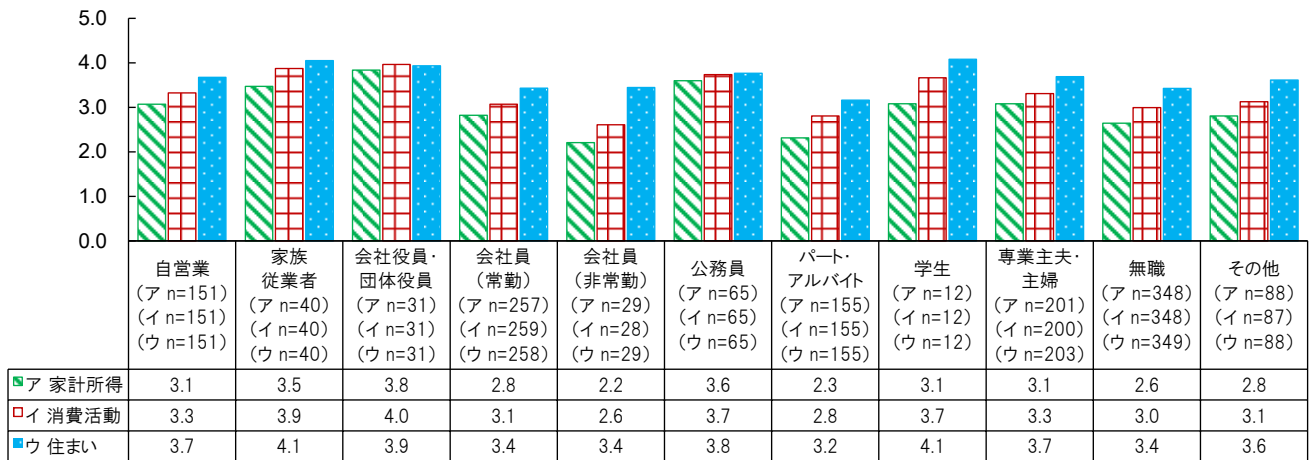


「自然資源」では、すべての職業で4.0を上回る。

「歴史・文化」では、家族従業者、公務員が4.0で高く、学生が3.4で最も低い。

「地域社会とのつながり」では、家族従業者が4.4で最も高く、自営業が4.0で続く。低いのは学生が2.7、会社員（常勤）が3.2、公務員が3.3。

C 経済的な安定

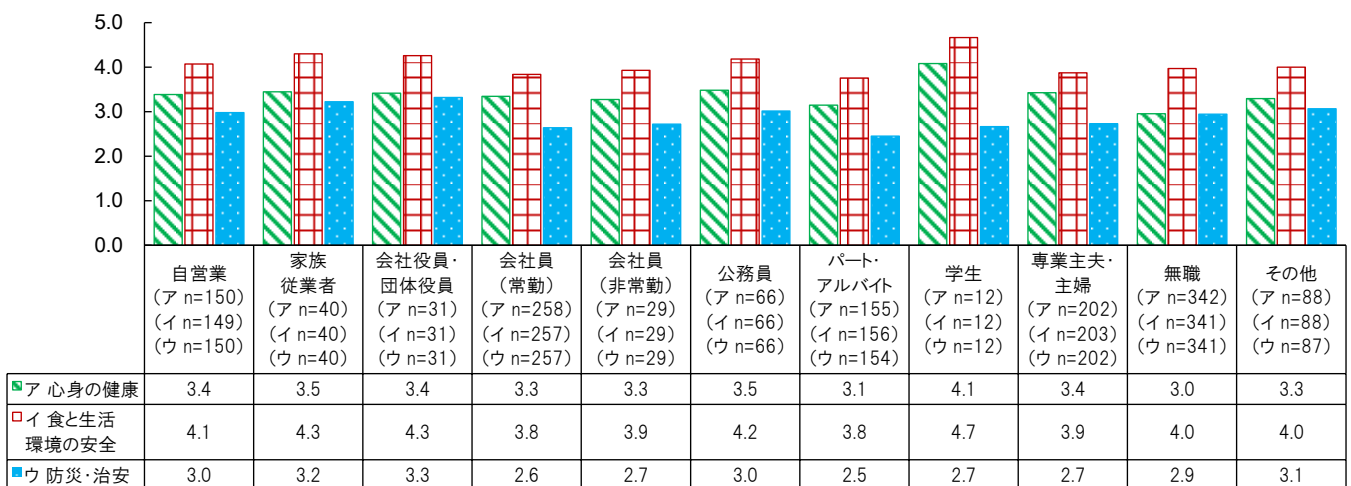


「家計所得」では、会社役員・団体役員が3.8で高く、次いで公務員3.6、家族従業者3.5の順。逆に、会社員（非常勤）が2.2、パート・アルバイトが2.3、無職が2.6で低い。

「消費活動」では、会社役員・団体役員4.0、家族従業者が3.9で高く、会社員（非常勤）とパート・アルバイトが3.0を下回る。

「住まい」では、家族従業者と学生が4.1で高い。

D 将来に不安がない

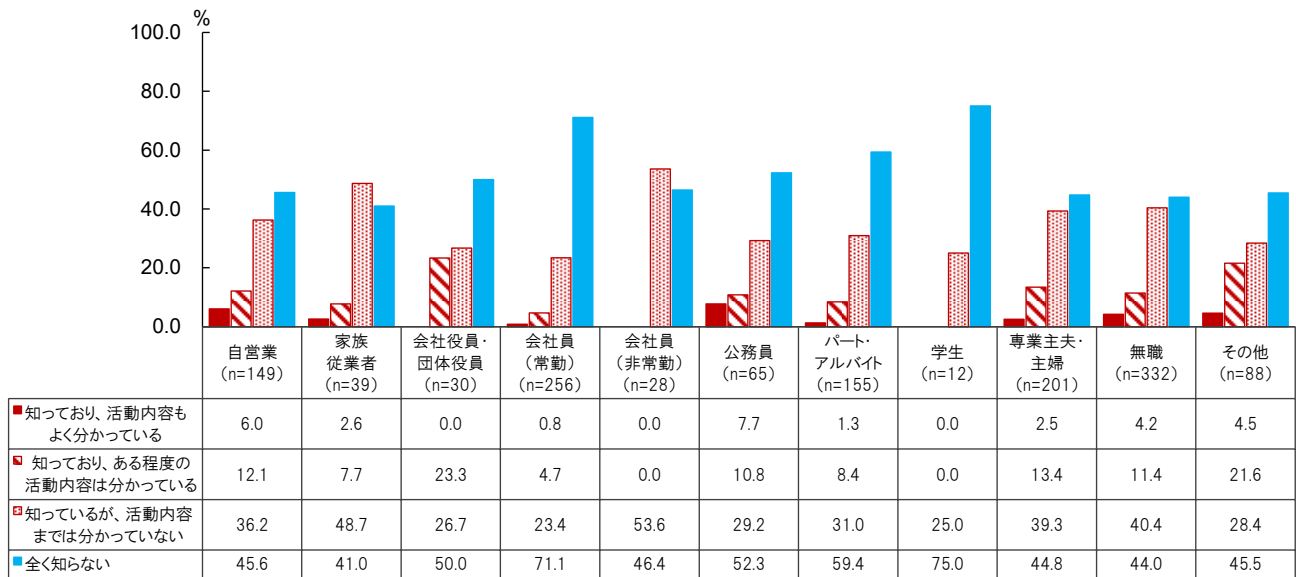


「心身の健康」では、学生が4.1で高く、その他の職業は3.0～3.5。

「食と生活環境の安全」では、学生が4.7で特に高く、家族従業者と会社役員・団体役員が4.3で続く。

「防災・治安」では、中央値を上回るのは会社役員・団体役員（3.3）、家族従業者（3.2）、その他（3.1）のみで、これ以外の職業は中央値以下にとどまる。

問8 「しあわせ部」の活動の認知度について



「しあわせ部」の活動の認知度については、“ある程度の活動内容が分かっている人”の割合は、その他が最も高く 26.1%、会社役員・団体役員が 23.3%、公務員が 18.5%、自営業が 18.1%の順。逆に会社員（非常勤）と学生が 0.0%、会社員（常勤）が 5.5%、パート・アルバイトが 9.7%で低い。

また、「知っているが、活動内容までは分かっている」を含めた「しあわせ部」の存在について“知っている人”の割合は、家族従業者が 59.0%で高く、無職、専業主夫・主婦、自営業、その他、会社員（非常勤）が 5割を超える。これに対して、学生が 25.0%、会社員（常勤）が 28.9%で低い。

⑤まとめ

クロス集計の結果について、まとめると以下ようになる。

ア 男女別

直観的な幸福度については、“幸福を感じている人”（「感じている」＋「やや感じている」）の割合は、男性が67.4%に対して女性が77.7%で、女性が10.3ポイント上回る。女性が男性を上回るのは前年とも同様となっているが、その差はさらに拡大している。

4つの分類のウエイトについては、男女とも「夢を持っている」「経済的な安定」「将来に不安がない」「誇りがある」の順で大きい。

12の項目の満足度については、ほとんどの項目で男女同点か0.1ポイントの差。0.2ポイント以上の差があったのは3項目で、「夢を持っている」の「仕事関係」と「将来に不安がない」の「防災・治安」では男性が上回り、「誇りがある」の「地域社会とのつながり」では女性が上回る。

「しあわせ部」の活動内容の認知度は、“ある程度の活動内容が分かっている人”は男性が13.8%、女性が13.2%。「しあわせ部」の存在について“知っている人”は男女とも48%程度。男女間で大きな差はみられない。

イ 年代別

直観的な幸福度については、“幸福を感じている人”の割合は30歳代が最も高く78.0%、70歳以上が75.3%、50歳代が73.8%の順となり、その他の年代でも7割に達している。

4つの分類のウエイトについては、20～40歳代の中若年層では、「夢を持っている」の重要度が高く、これに「経済的な安定」、「将来に不安がない」と続き、「誇りがある」はいずれも2.00前後にとどまる。一方、50歳以上では4つの分類の差が小さくなる。50歳代と70歳以上では「経済的な安定」に次いで「夢を持っている」、60歳代では中若年層と同様に「夢を持っている」「経済的な安定」の順。

12の項目の満足度については、「夢を持っている」では、「家族関係」は30歳代と40歳代の3.9をはじめ、すべての年代で高い。「仕事関係」は20～40歳代の若い年代が高く、70歳以上が低い。「教育環境」は20歳代が高く、他の年代は中央値にとどまる。

「誇りがある」では、「自然資源」はすべての年代で4.0を超え高く、「歴史・文化」はすべての年代でほぼ並び、「地域社会とのつながり」は60歳以上の高年層で高く、若年層で低い。

「経済的な安定」では、「家計所得」はすべての年代で中央値を下回る。「消費活動」はすべての年代が中央値近くで大きな差はみられない。「住まい」は70歳以上が高い。

「将来に不安がない」では、「心身の健康」は20歳代が高く、40歳代が低い。「食と生活環境の安全」はすべての年代で大きな差はみられない。「防災・治安」では70歳以上を除くと低い水準にとどまり、特に20歳代と30歳代の若年層が低い。

「しあわせ部」の活動内容の認知度は、“ある程度の活動内容が分かっている人”の割合は、70歳以上が26.2%、60歳代が13.9%で、20～50歳代では10%未満にとどまる。特に20歳

代ではゼロとなった。「しあわせ部」の存在について“知っている人”の割合は70歳以上が最も高く7割近く、60歳代が50%台と高年層で高く、40歳代と50歳代の中年層では4割近く、20歳代と30歳代の若年層ではほぼ2割となった。

ウ 地域別

直観的な幸福度については、“幸福を感じている人”の割合は、阿蘇が75.9%、宇城が75.3%、八代が74.7%の順で高く、その他の地域でも7割を超える。

4つの分類のウエイトについては、4つのパターンに分かれる。熊本、菊池、阿蘇、八代、球磨、天草では「夢を持っている」が高く「経済的な安定」「将来に不安がない」「誇りがある」の順、宇城、玉名、鹿本では「経済的な安定」が高く「夢を持っている」「将来に不安がない」「誇りがある」が続く。上益城では「経済的な安定」に「将来に不安がない」が続き「夢を持っている」「誇りがある」の順、芦北では「夢を持っている」が高く「経済的な安定」「誇りがある」「将来に不安がない」の順となった。

12の項目の満足度については、「夢を持っている」では、「家族関係」で阿蘇、八代、球磨が高く、「仕事関係」で阿蘇が最も高い。「教育環境」では地域間で大きな差はみられない。

「誇りがある」では、「自然資源」で阿蘇が特に高く満点に近い。「歴史・文化」で熊本、鹿本、球磨が高く、「地域社会とのつながり」で球磨、阿蘇、芦北、天草が高い。

「経済的な安定」では、「家計所得」と「消費活動」では大きな差がなく、「住まい」では阿蘇、上益城が高く、芦北がやや低い。

「将来に不安がない」では、「心身の健康」で阿蘇がやや高く、玉名、八代がやや低い。「食と生活環境の安全」で上益城、球磨、鹿本、阿蘇が高く、「防災・治安」で大きな差はみられない。

「しあわせ部」の活動の認知度については、“ある程度の活動内容が分かっている人”の割合は、阿蘇が最も高く、天草、上益城、球磨が続く。最も低いのは玉名で7.4%にとどまる。

「しあわせ部」の存在について“知っている人”の割合は、鹿本、天草、球磨、上益城で5割を上回る。最も低いのは芦北で44.8%、これに熊本が45.1%で続く。

エ 職業別

直観的な幸福度については、“幸福を感じている人”の割合は、家族従業者が95.0%で特に高く、専業主夫・主婦、会社役員・団体役員、公務員が8割に達する。これに対して、低いのは無職、パート・アルバイトで60%台にとどまる。

4つの分類のウエイトについては、自営業、家族従業者、会社員（常勤）、会社員（非常勤）、公務員、学生、その他では「夢を持っている」が最も高く、会社役員・団体役員、パート・アルバイト、専業主夫・主婦では「経済的な安定」、無職では「将来に不安がない」が最も高い。

12の項目の満足度については、「夢を持っている」では、「家族関係」で家族従業者と会社役員・団体役員が高く、「仕事関係」で会社役員・団体役員と学生が高く、専業主夫・主婦と無職が低い。「教育環境」で学生が特に高く、無職、その他、会社員（非常勤）、パート・アルバイトが低い。

「誇りがある」では、「自然資源」ですべての職業で高く、「歴史・文化」では公務員が高く、学生が低い。「地域社会とのつながり」では家族従業者と自営業が高く、学生、会社員（常勤）、公務員が低い。

「経済的な安定」では、「家計所得」で会社役員・団体役員、公務員、家族従業者が高く、会社員（非常勤）、パート・アルバイト、無職が低い。「消費活動」で会社役員・団体役員と家族従業者が高く、「住まい」では家族従業者と学生が高い。

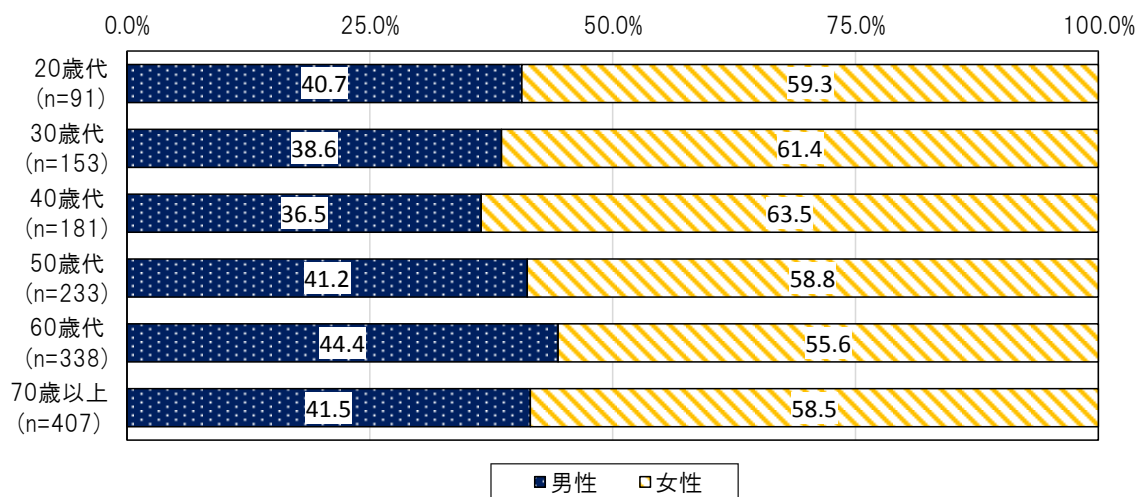
「将来に不安がない」では、「心身の健康」と「食と生活環境の安全」で学生が高く、「防災・治安」では会社役員・団体役員、家族従業者、その他のみが中央値を超える。

「しあわせ部」の活動の認知度については、“ある程度の活動内容が分かっている人”の割合は、その他と会社役員・団体役員が20%台、公務員と自営業が2割近くとなった。これに対して、会社員（非常勤）と学生は0%、会社員（常勤）が5.5%と低い。「しあわせ部」の存在について“知っている人”の割合は、家族従業者が59.0%で高く、学生と会社員（常勤）が20%台で低い。

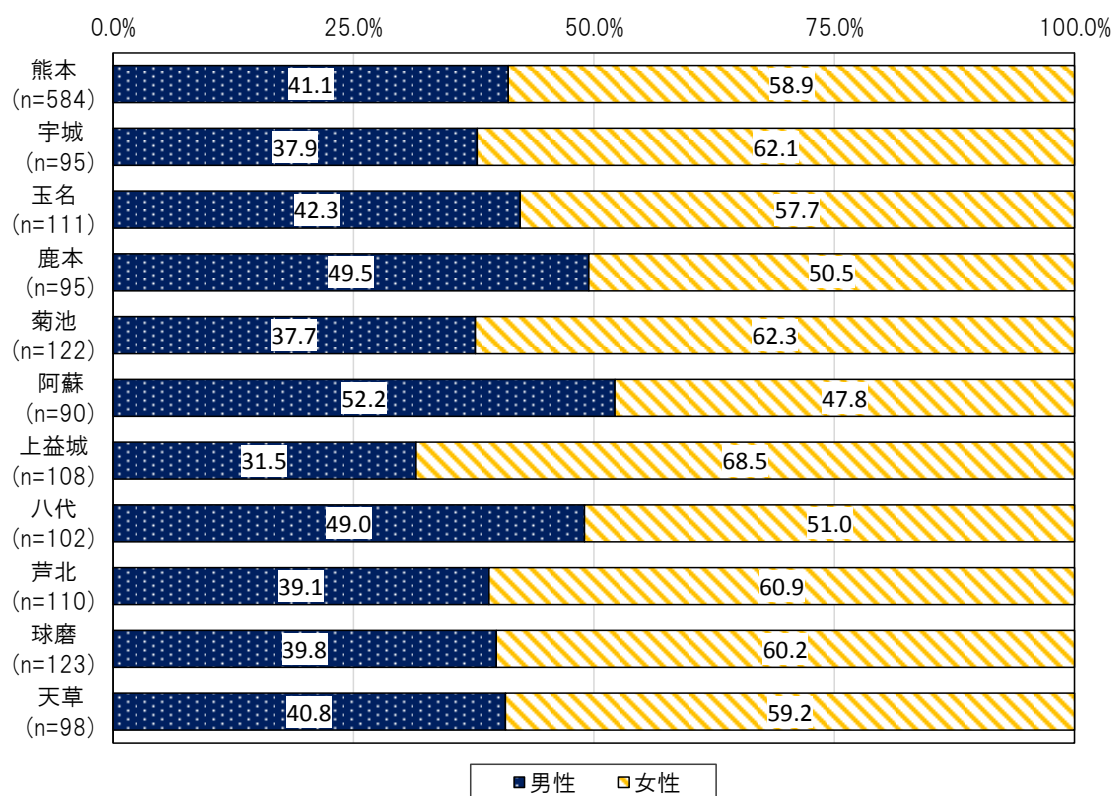
(3) 属性

問4 性別

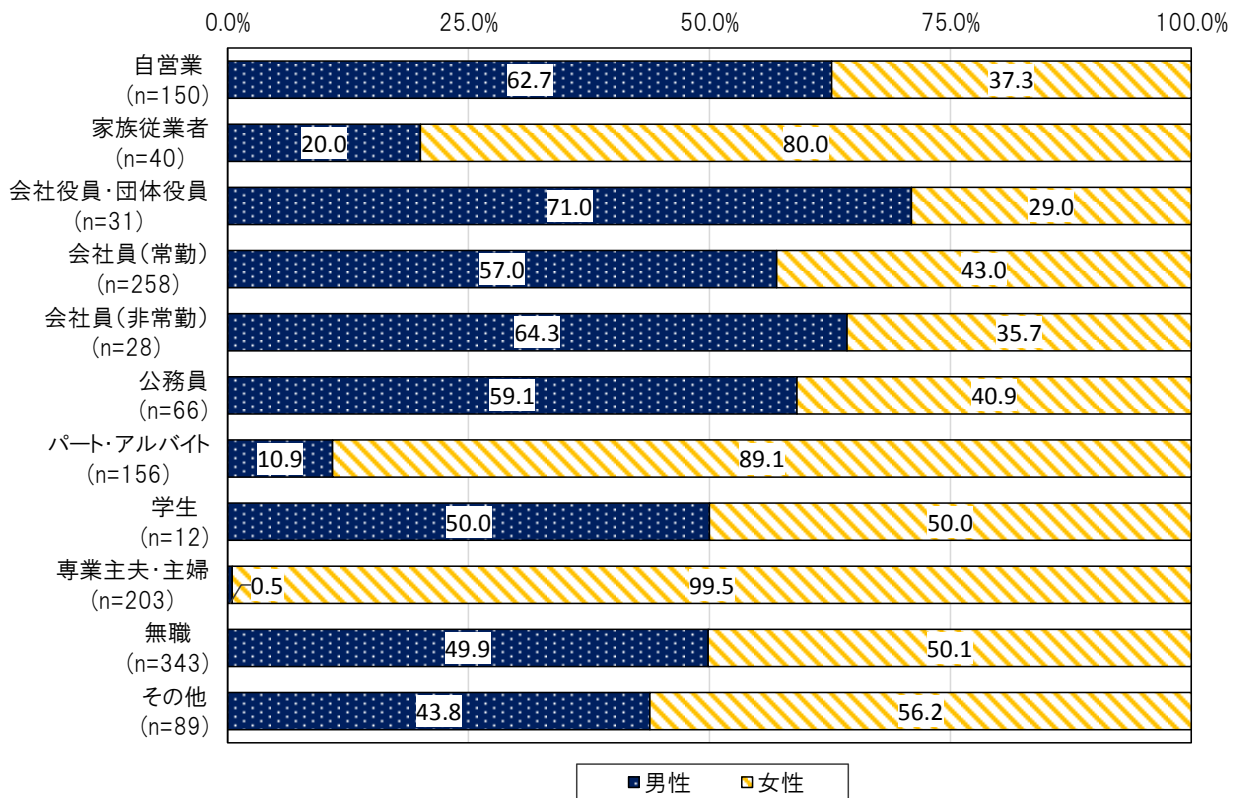
①年代別



②地域別

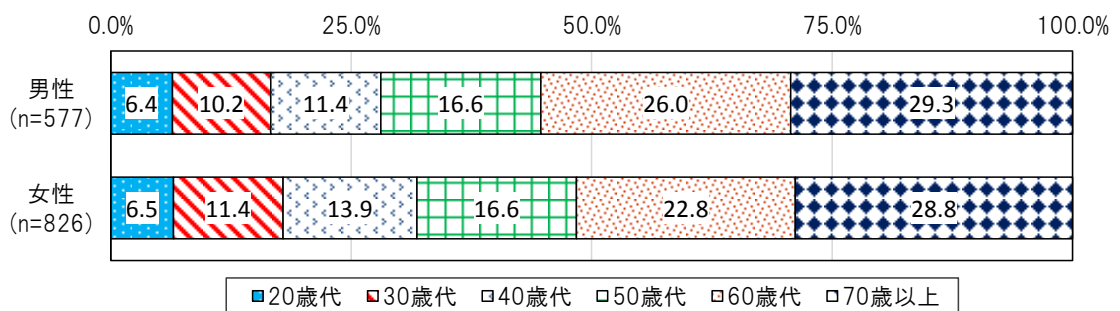


③職業別

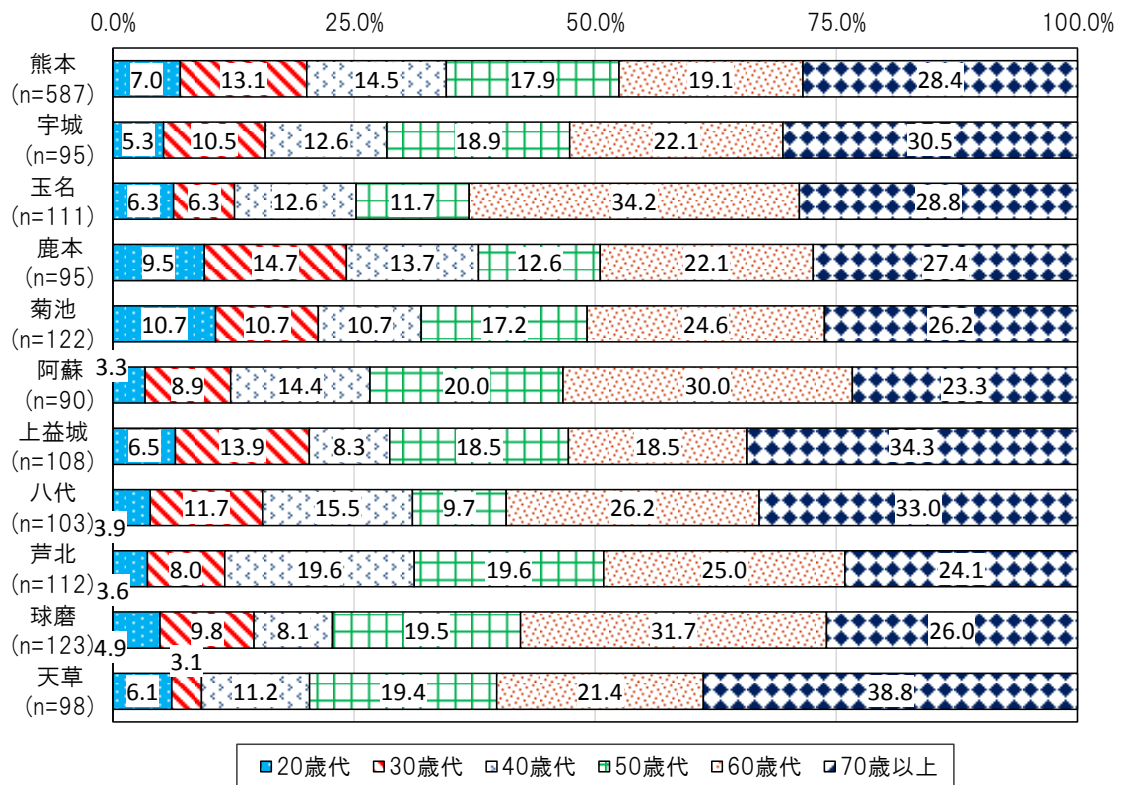


問5 年代

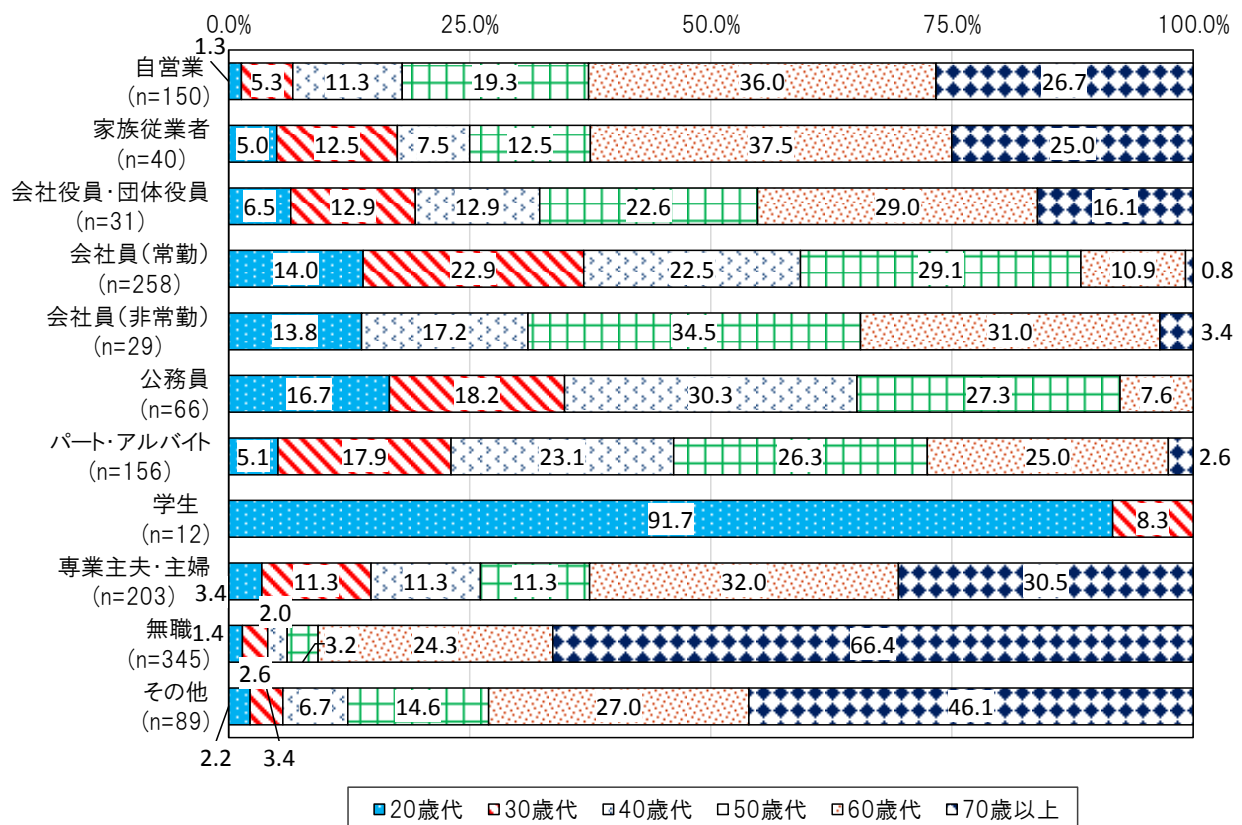
①性別



②地域別

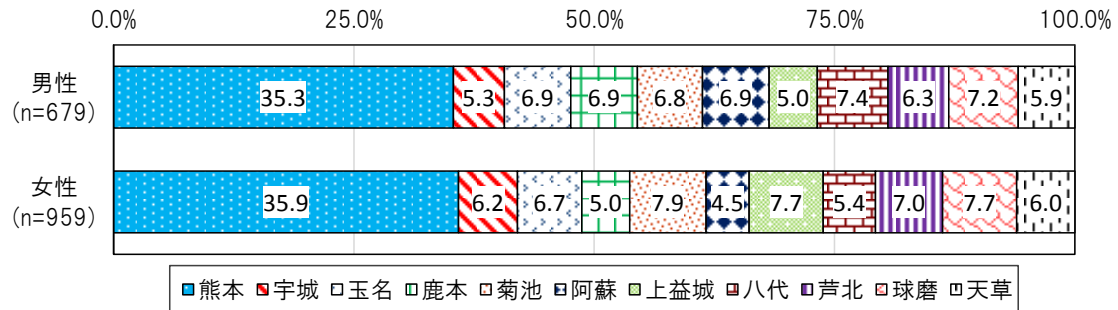


③職業別

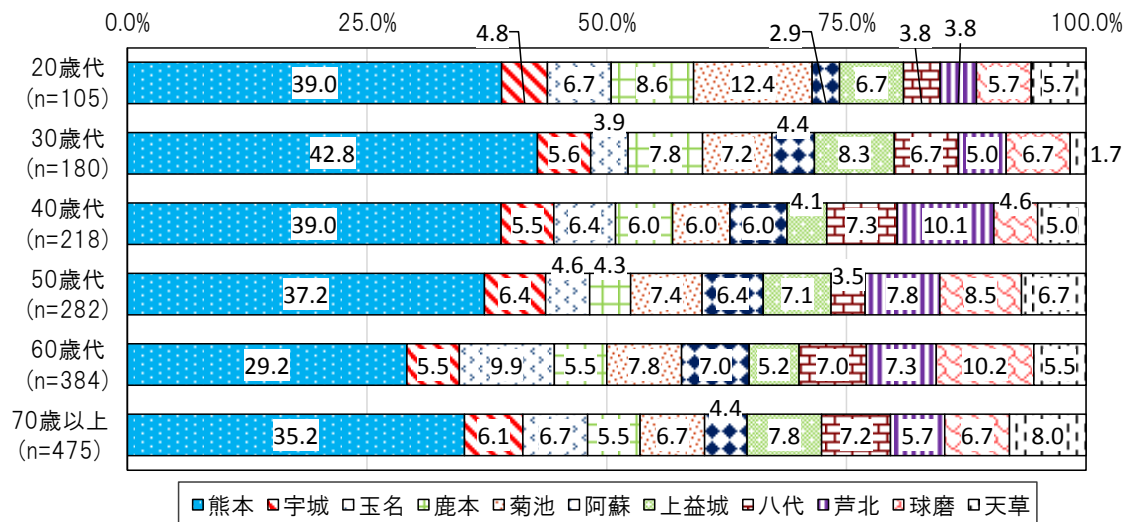


問6 お住まいの地域

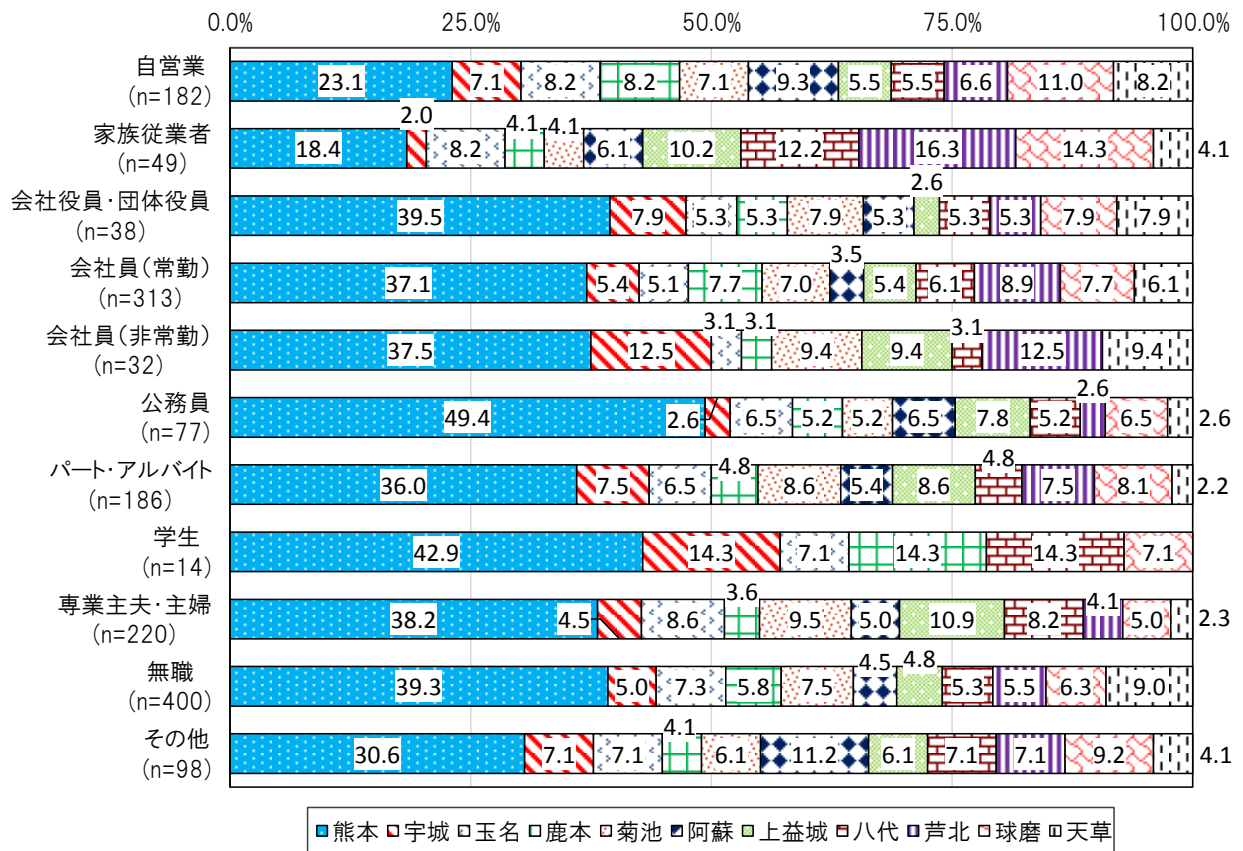
①性別



②年代別

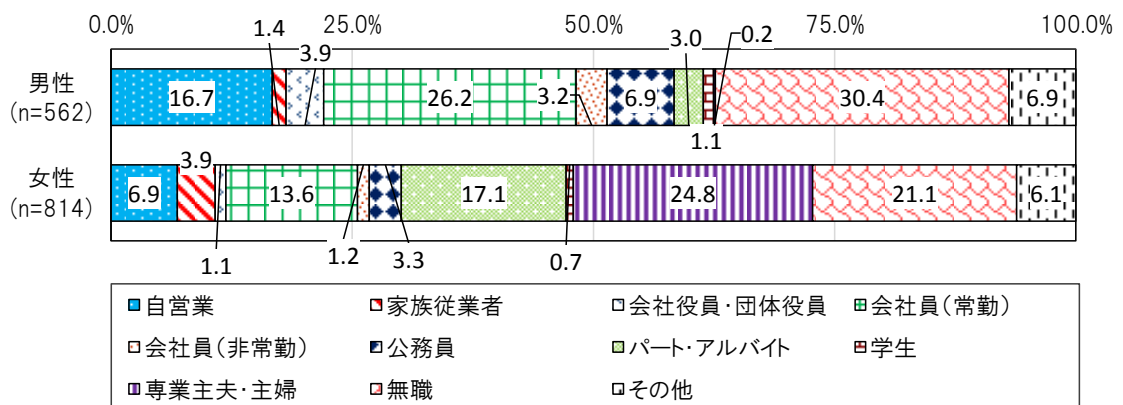


③職業別

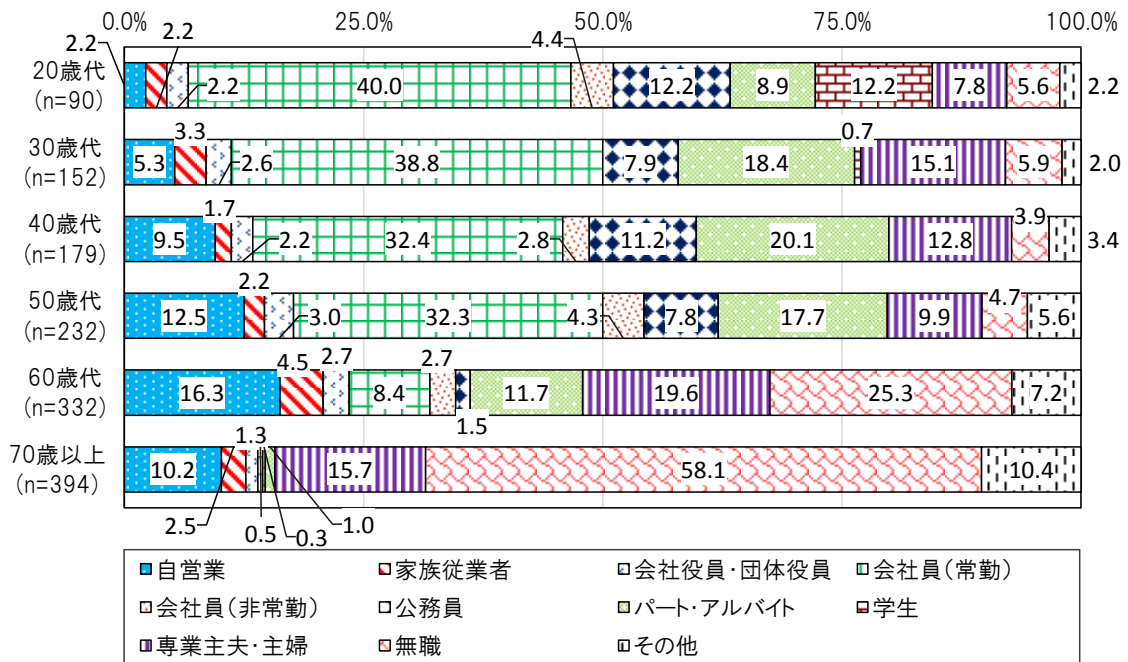


問7 職業

①性別



②年代別



③地域別

